



Start M4 XXL, Start M6 Junior

JA 取扱説明書(ユーザー用)	3
-----------------------	---

目次

1	はじめに.....	5
2	使用目的.....	5
2.1	使用目的.....	5
2.2	適応（以下の適応症は海外で認可されたものです。）.....	5
2.3	禁忌.....	6
2.3.1	絶対的禁忌.....	6
2.3.2	相対的禁忌.....	6
3	製品概要.....	6
3.1	機能.....	6
3.2	製品概要.....	7
4	安全性.....	8
4.1	警告に関する記号の説明.....	8
4.2	安全に関する注意事項.....	9
4.3	副作用.....	12
4.4	詳細.....	12
4.5	ネームプレートと警告ラベル表示.....	12
4.5.1	ネームプレート.....	12
4.5.1.1	Start M4 XXL.....	12
4.5.1.2	Start M6 Junior.....	13
4.5.2	警告ラベル表示.....	13
5	納品.....	13
5.1	納品時のパッケージ内容.....	13
5.2	オプション.....	13
5.3	保管方法.....	13
5.3.1	日常での保管.....	13
5.3.2	長期の保管.....	13
6	使用前の準備.....	14
6.1	組み立て.....	14
7	使用方法.....	15
7.1	その他の詳細な取扱説明.....	15
7.2	乗り込みと移動.....	15
7.3	レッグレスト.....	16
7.3.1	フットプレートを上に畳む/下げる.....	16
7.3.2	カーフストラップの取り外しおよび締め付け.....	17
7.3.3	レッグサポートの取り外し/取り付け.....	17
7.3.4	「リフト式」レッグサポートの角度調整.....	18
7.3.5	レッグサポートの調整.....	19
7.4	シートとバックレストカバー.....	19
7.4.1	シートクッションの取り外し/固定.....	19
7.4.2	バックレストパッドの取り外し/固定.....	19
7.5	バックレスト.....	20
7.6	サイドパネル.....	20
7.6.1	サイドパネルを振り上げる/降ろす.....	21
7.6.2	前腕サポートの高さ調整.....	22
7.6.3	サイドパネルの取り外し.....	22
7.6.4	旋回ユニットを取り付けたアームサポートの調整.....	23
7.7	プッシュハンドル.....	24
7.7.1	プッシュハンドルの高さ調整.....	24
7.7.2	プッシュハンドルの取り外し.....	24
7.8	スタビライザーバー.....	24
7.9	駆動輪.....	25
7.9.1	駆動輪の取り付け/取り外し.....	25
7.9.2	スポークプロテクター.....	26

7.10	キャスターとキャスターフォーク	26
7.10.1	動きが鈍い場合の措置	27
7.11	ホイールロック	27
7.11.1	ホイールロックの使用	27
7.11.2	ドラムブレーキ	28
7.11.3	ユーザーと補助者のための膝レバー・ブレーキ	28
7.11.4	ホイールロックレバーエクステンションの使用	29
7.12	ラップベルト（シートベルト）	29
7.13	転倒防止具/振り出し式転倒防止具	30
7.13.1	転倒防止具	30
7.13.2	振り出し式転倒防止具	31
7.14	輸送用車輪	33
7.15	面ファスナーストラップ付き松葉杖ホルダー	33
7.16	ヘッドレスト	33
7.17	トレイ	34
7.18	追加オプション	35
7.19	解体および輸送	35
7.20	モビリティに制限のある方が車で移動するために使用します	36
7.20.1	Start M6 Junior	36
7.20.1.1	必要な付属品	36
7.20.1.2	車両内での本製品の使用	37
7.20.1.3	使用制限	40
7.20.2	Start M4 XXL	41
7.21	お手入れ方法	41
7.21.1	お手入れ方法	41
7.21.1.1	手作業でのお手入れ	41
7.21.1.2	ベルト/ストラップのお手入れ	41
7.21.2	消毒	41
8	メンテナンスと修理	42
8.1	メンテナンス	42
8.1.1	メンテナンスの頻度	42
8.1.2	メンテナンス作業	42
8.2	修理	42
8.2.1	内部チューブ、リムテープ、タイヤの交換	42
9	廃棄	44
9.1	廃棄に関する注意事項	44
10	法的事項について	44
10.1	保証責任	44
10.2	保証	44
10.3	耐用年数	44
11	テクニカル データ	44
12	追加情報	46
12.1	電車で輸送させることができる車椅子の閾値	46

1 はじめに

備考

最終更新日: 2019-12-19

- ▶ 本製品をご使用になる際は本書をよくお読みください。
- ▶ 下記の安全性に関する注意事項に従わないと、負傷したり製品が損傷するおそれがあります。
- ▶ 本製品の使用に関しては、必ず有資格者（医師や義肢装具士など）から安全で正しい使用方法について説明を受け、その指示に従ってください。
- ▶ 本書は安全な場所に保管してください。

備考

- ▶ 製品の安全性や回収に関する新しい情報ならびに適合宣言書については、oa@ottobock.comまたは、製造業者のサービス窓口（裏表紙内側または裏表紙の連絡先を参照）までご連絡ください。
- ▶ 本書のPDFファイルが必要な方は、oa@ottobock.com、または、製造業者のサービス窓口（裏表紙内側または裏表紙の連絡先を参照）までご連絡ください。PDFファイルは拡大表示も可能です。
- ▶ 製品に関連して生じた重篤な事象は、すべて製造元（裏表紙の連絡先を参照）とお住まいの国の規制当局に報告してください。
- ▶ 取扱説明書に関するご質問は、製品を購入した正規代理店までご連絡ください。

毎日室内で、屋外でさまざまな用途に使用できる医療機器をお届けしました。

いかなる負傷も回避するために、ご使用前に製品の取り扱い、機能、使用目的について熟知するようにしてください。本取扱説明書は必要となる関連情報を提供するものです。

特に以下の点にご注意ください:

- ・ ユーザーは必ずこれらの取扱説明書を読み、有資格者から説明を受けてください。
- ・ 補助者（本製品を操作する人物）も必ずこれらの取扱説明書を読み、有資格者から説明を受けてください。
- ・ 本製品はユーザーのニーズを満たすことができるように調整されています。さらなる変更は有資格者のみが行ってください。長期間にわたり最適にご利用いただけるように、本製品の設定を定期的に点検することを推奨しています。ユーザーが成長過程にある小児および未成年者である場合、設定の見直しを6ヵ月毎に実施してください。
- ・ トラブルが発生した場合は、本製品の調整を行った有資格者（義肢装具製作施設）または製造元のサービス部門までご連絡ください（本書の裏表紙の内側または裏表紙の連絡先を参照）。
- ・ 本製品は本書に記載のあるオプションに限り併用が可能です。モジュラーシステムに含まれていない他メーカーの医療機器および付属品と併用した場合、製造元は一切の責任を負いません。また、「免責事項」の章の情報をよくお読みください。
- ・ 本製品のメンテナンスおよび修理は有資格者のみが行ってください。トラブルが発生した場合は、お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。これにより、必要となる修理には確実にOttobock 交換部品のみが使用されます。
- ・ お手元の製品が画像のバージョンとは異なる場合があります。特に、本取扱説明書に記載のあるオプションのなかには、ご自身の車椅子には取り付けられていないものもあります。
- ・ 製造元は、取扱説明書に記載されたモデルに技術的な変更を行う権利を有します。

2 使用目的

2.1 使用目的

本車椅子は、歩行障害または歩行不能の患者が自身または補助者の操作により日常屋内外で使用するのみを目的としています。

本製品は、それぞれの身体的条件(体の大きさや体重)のもと、使用目的に従って使用することができるユーザーに適した製品です。

本車椅子は、製品注文書に記載されているオプションを組み合わせるのみ使用することができます。

Ottobock は、モジュラーシステムに含まれていない製造業者による医療機器および付属品との併用に関して一切の責任を負いません。

併用が認証に基づいて組み合わせられている製品に関しては有効性と安全性に関して評価されているため、例外となります。

使用目的に沿い、本取扱説明書に記載されている情報に従って使用した場合のみ、本車椅子の安全な使用を確保することができます。事故のない操作は最終的にユーザーの責任となります。

2.2 適応（以下の適応症は海外で認可されたものです。）

- ・ 骨形成不全症

以下を原因として発生する下肢と上肢の可動性の制限、および筋力の軽度、顕著な、または完全な制限：

麻痺

- ・ 対麻痺（四肢麻痺、対麻痺、片麻痺、半身不随）
- ・ 脳性麻痺
- ・ 多発性硬化症
- ・ 進行性筋ジストロフィーまたは脊髄性筋萎縮症
- ・ 外傷性脳損傷
- ・ 脳卒中

四肢切断

- ・ 重度の循環障害または平衡機能障害を伴う切断
- ・ 健康な脚に十分に体重をかけることができない切断
- ・ 多肢切断

体肢の欠陥または変形

- ・ 四肢異常、アザラシ肢症
- ・ 脊椎側彎症

（顕著な、治療ができない）関節拘縮または関節損傷

- ・ 多発性関節症、多発性関節炎
- ・ 強直性脊椎炎
- ・ 先天性多発性関節拘縮症
- ・ 神経原性機能障害

その他の病気

- ・ 心不全、循環不全
- ・ 前庭障害
- ・ 悪液質

2.3 禁忌

2.3.1 絶対的禁忌

適切にご使用いただければ、禁忌はありません。

2.3.2 相対的禁忌

適切にご使用いただければ、禁忌はありません。

バージョンおよび設定方法によっては、この車椅子は、その設計から後方に傾く傾向があります。身体的要件を満たすユーザーがすばやく、機敏に操作できるように意図的にこのように設計されています。必要な身体的/心理的な前提条件を満たしていないユーザーには、そのようなバージョン/設定を決して提供しないでください！

3 製品概要

3.1 機能

本車椅子の使用目的は乗員一人の輸送のみです。

本車椅子は、屋内外の両方で、硬い地面の上で使用することができます。

3.2 製品概要



Start M4 XXL

1	前腕サポート付きサイドパネル	8	キャスター
2	シートクッション	9	ハンドリム付き駆動輪
3	レッグサポート、リフト式（オプション）	10	振り出し式転倒防止具（オプション）
4	ホイールロック（この場合：膝レバーブレーキ）	11	Quickchange軸用リリースボタン
5	クロスブレース	12	バックレスト、バックレストカバー
6	フレーム	13	ドラムブレーキレバー（オプション）
7	フットプレート（分割型）	14	スタビライザーバー付きプッシュハンドル



Start M6 Junior

1	前腕サポート付きサイドパネル	8	キャスター
2	シートクッション	9	ハンドリム付き駆動輪
3	レッグサポート、取り外し可能	10	転倒防止具（オプション）
4	ホイールロック（この場合：膝レバーブレーキ）	11	Quickchange軸用リリースボタン
5	クロスブレース	12	バックレスト、バックレストカバー
6	フレーム	13	プッシュハンドル、高さ調整可能（オプション）
7	フットプレート（分割型）		

4 安全性

4.1 警告に関する記号の説明

△警告	重大な事故または損傷の危険性に関する注意です。
△注意	事故または損傷の危険性に関する注意です。
注記	損傷につながる危険性に関する注記です。

4.2 安全に関する注意事項

使用準備中における危険

⚠ 警告

独自に設定を変更することで発生する危険性

製品に許可されていない変更を行うと装着者がひどい怪我を負うおそれがあります。

- ▶ 義肢製作施設にて行った設定は変更しないでください。取扱説明書の「使用方法」のセクションに記載された設定のみ、独自に調整することができます。
- ▶ 設定に問題がある場合は、調整を行った義肢製作施設にご連絡ください。
- ▶ 健康被害を最小に抑え、治療による危険を避けるためにも、予め義肢装具士や療法士と設定変更についてよく話し合ってください。

⚠ 警告

安全を確保できる範囲を超えた設定

ユーザーの身体的/心理的要件をよく確認せずに行われた調整による転倒や落下

- ▶ バージョンおよび設定方法によっては、本製品は、その設計から後方に傾く傾向があります。身体的要件を満たすユーザーがすばやく、機敏に操作できるように意図的にこのように設計されています。
- ▶ 必要な身体的/心理的な前提条件を満たしているユーザーには、そのようなバージョン/設定を提供することができます。身体的/心理学的な前提条件に変化が見られる場合、そのような設定で本製品を使用しないでください。このような場合、有資格担当者に至急ご連絡ください。

⚠ 警告

包装材の不適切な取り扱いによる危険性

監視を怠ることでお子様が窒息するおそれがあります。

- ▶ 包装材は、必ず小児の手の届かない場所に保管してください。

手を損傷する危険

⚠ 注意

パーツに挟まれる危険

危険な領域に不注意に触れることで発生する挟まれ、圧潰

- ▶ 車椅子走行中に駆動輪とホイールロックの間、または駆動輪とサイドパネルの間に手を入れないでください。
- ▶ 回転している駆動輪のスプークには触れないでください。
- ▶ ホイールロックレバー、側面、またはフレーム部品により身体部位を挟まれないようご注意ください。

⚠ 注意

ハンドリムのブレーキによる熱の発生

手の保護が十分でないと火傷を負うおそれがあります。

- ▶ 高速で走行する際は、車椅子用手袋を装着してください。

走行中の危険

⚠ 警告

不適切なブレーキ使用により発生する危険

急ブレーキによる転倒や車椅子の脱輪、ホイールロックの破損

- ▶ ホイールロックは走行を停止するためのものではありません。
- ▶ ホイールロックは車椅子がでこぼこ道を走る、または輸送中(例：車の中)の移動を防ぐためのものです。

⚠ 注意

経験不足

本製品の誤った取り扱いによる転倒または横転

- ▶ 初めに、平らな見通しの良い場所で練習してください。
- ▶ 本製品の重心がどのように変化するかを補助者のサポートを得ながら知るようにしてください(例：下向き、坂道を上がる、傾斜、または障害物を乗り越えるなど)。

△ 注意

車椅子に乗った状態での前のめり

重心が誤った位置にあることによる転倒、横転

- ▶ 物を拾う場合は、車椅子から遠くに身を乗り出さないでください。
- ▶ 傾斜面を上る、傾斜またはスロープにある障害物を乗り越える際は、上半身を前方に傾けてください。ユーザーが上半身を前方に傾けることができない場合、補助者が後ろから車椅子をサポートする必要があります。

△ 注意

危険な操作

障害物への誤った接近による転倒、後方への転倒

- ▶ 障害物（階段、縁石など）を乗り越える時、また上り/下りの斜面や傾斜では車椅子をゆっくりと押してください。
- ▶ 角度をつけて障害物を乗り越えないでください。障害物に対しては常にまっすぐ（角度90°）前進します。
- ▶ 障害物を乗り越える前に前輪を持ち上げます。
- ▶ 障害物との衝突や縁石/出っ張りからタイヤが落ちないように注意してください。
- ▶ 整地されていない場所での走行は避けてください。

△ 注意

公共交通手段での転倒防止措置の欠如

不適切な配置による転倒、ユーザーの転落、製品破損

- ▶ 公共交通手段を利用する際には、現行の法的要件およびその交通機関の安全注意事項に常に従ってください。
- ▶ 車両に設置された座席を使用してください。車椅子を座席として使用しなければならない場合は、車いす用に設けられたスペース、またそこに用意されている安全固定装置を使用してください。車椅子が安全に正しい位置に固定されていることを常に確認してください。

△ 注意

鉄道の踏切における誤った取り扱い

誤った走行方法によるユーザーの転倒または落下の危険

- ▶ 鉄道システムおよび線路を横断する際には指定されたエリアのみを走行してください。
- ▶ 踏切を横断する際には本製品のキャスターがレールと路面の間に挟まってしまうことがないように慎重に走行してください。

△ 注意

暗い場所での走行

ライトの点灯がない場合、路上の交通参加者と衝突の危険

- ▶ 明るい色の衣服、または反射板の付いた衣服を着用してください。
- ▶ ご利用の製品にライトを装着してください。
- ▶ 本製品の反射板が確実に見える状態であることを確認してください。

障害物を乗り越える際の危険

△ 警告

補助者がいない状態で階段または障害物を乗り越える

輸送に関する指示に従わずユーザーが転倒、落下するおそれがあります

- ▶ 階段を登る、または他の障害物を乗り越える場合には必ず補助者のサポートを得るようにしてください。
- ▶ 利用可能な設備(例：スロープやリフト)を使用してください。
- ▶ もしそのような設備が無い場合、2人の補助者に車椅子を持ち上げてもらい障害物を乗り越えるようにしてください。

△ 警告**補助者による不適切な持ち上げにより発生する危険**

緩んだパーツや不適切なパーツを持って車椅子を持ち上げると、利用者が転倒したり落下したりするおそれがあります

- ▶ 持ち上げる際に掴める場所は溶接されているパーツ（メインフレームなど）のみです。
- ▶ ねじ止めされている、または後付けされているパーツを掴んで持ち上げないでください。

△ 警告**地面とのクリアランスが短くなっている「足で前進させる車椅子」オプション**

障害物に引っかかり転倒、転落するおそれがあります

- ▶ 「足で前進させる車椅子」オプションのある車椅子では、下肢の長さとお前部座席の高さの設定に応じて、最低地上高40 mmを下回っていることがある点にご注意ください。
- ▶ 地面とのクリアランスが短くなっている状態に合わせ、階段、縁石、敷居といった地面にある障害物に特に注意を払って走行してください。

皮膚に損傷がある場合の危険**△ 注意****損傷のある皮膚との接触**

病原菌が混入するか、シートクッションの調整が不適切であるために、皮膚の発赤や圧点が生じるおそれがあります。

- ▶ 製品を使用する前に、長時間圧迫がかかる部位(臀部、背中、および大腿後部)において、皮膚が損傷していないか確認してください。
- ▶ 問題があれば、製品の調整を行った義肢製作施設までご連絡ください。
- ▶ 皮膚に損傷がある状態で製品を使用した場合、それにより生じる傷害についての補償はありません。

火災、熱、寒さによる危険**△ 注意****極端な温度により発生する危険**

パーツと接触したり、パーツの故障により、体温が低下したり火傷が生じたりするおそれがあります。

- ▶ 直射日光、サウナ、極端な寒さなど、製品をいかなる極端な温度にも曝さないでください。
- ▶ ヒーターの近くに製品を放置しないでください。

製品の誤使用による危険**△ 警告****負荷過重**

負荷過重による転倒、それに伴う重篤な傷害、製品の損傷

- ▶ 最大荷重（ネームプレートおよび「テクニカルデータ」の章参照）を超過していないことを確認してください。
- ▶ 特定の付属品や拡張パーツが取り付けられている場合、その重量も加算される点にご注意ください。

△ 警告**耐用年数を超えた使用**

製造元の指定に従わなかったことによる重篤な負傷の危険

- ▶ 指定された耐用年数を超えて製品を使用すると、残存リスクが高くなります。
- ▶ 指定された耐用年数をご確認ください。

△ 警告**車椅子を誤った方法で押し引きする危険**

ユーザーの誤操作による転倒、落下

- ▶ 車椅子を押す、または障害物を乗り越える際には、プッシュハンドルのみを使用してください。
- ▶ 補助者が安全な姿勢で、（両側の）プッシュハンドルをしっかりと握っていることを確認してください。
- ▶ プッシュハンドルに破損が見られる場合には、直ちに修理を依頼してください。

注意

診断検査および治療での製品の使用
 製品と使用される医療機器との相互作用による検査結果への影響または治療の有効性の低下
 ▶ 検査および治療が所定の条件下でのみ行われていることを確認してください。

注意

制御できない動作、予期せぬ音やにおい
 故障による転落、転倒、付近にいる人または物品への衝突
 ▶ 人身傷害につながる可能性のある不具合、欠陥、またはその他の危険が考えられる場合は、製品の使用を直ちに中止してください。これには、制御できない動作、予期せぬ音、以前は気づかなかった音、または納品時の製品では全く感じられなかった臭いが含まれます。
 ▶ お買い上げいただいた認定販売店までご連絡ください。

注記

不適切な環境での使用
 腐食または摩耗による製品の破損
 ▶ 本製品を塩水に浸した状態で使用しないでください。
 ▶ 車輪のベアリングが砂やその他の粒子からダメージを受けていないか点検してください。

4.3 副作用

本製品使用中に以下の副作用が発生することがあります：

- ・ 首、筋肉、関節の痛み
- ・ 循環障害、褥瘡（じゅくそう）

問題が発生した場合は医師か療法士にご相談ください。

4.4 詳細

備考

全ての適用ガイドラインおよび規格を遵守していますが、（例：デパートなどの）アラームシステムが車椅子に反応することがあります。これが発生した場合、ご使用の車椅子はアラームが検知した場所から離してください。

4.5 ネームプレートと警告ラベル表示

4.5.1 ネームプレート

ネームプレートはクロスブレースにあります。

4.5.1.1 Start M4 XXL

ラベル表示	説明
	A 製造元での製品名
	B CEマーキング
	C 最大荷重(「テクニカルデータ」の章を参照してください)
	D 製造元情報/住所
	E シリアルナンバー ¹⁾
	F 製造日 ²⁾
	G 医療機器のマーク
	H 警告 ご使用になる前に、取扱説明書をお読みください。安全性に関する重要な注意事項をよくお読みください(警告や注意など)。
	I 本製品は、モビリティに制限のある方の場合、車で移動する際の座席としての使用はメーカーから承認されていません
	J 関連製品を示す製造元の製品番号
	K シリアルナンバー(PI) ³⁾ 、 ¹⁾
	L 国際商品識別コード(DI) ⁴⁾

1) YYYYY = 製造年、WW = 製造週、PP = 製造場所、XXXX = 製造番号(連番)

2) YYYYY = 製造年、MM = 製造月、DD = 製造日

- 3) 機器識別情報(UDI-DI) からGS1識別コード、UDI = 機器固有識別子、PI = 製造識別子
 4) 機器識別情報(UDI-DI) からGS1識別コード、UDI = 機器固有識別子、DI = 機器識別子

4.5.1.2 Start M6 Junior

ラベル表示	説明
	A 製造元での製品名
	B CEマーキング
	C 最大荷重(「テクニカルデータ」の章を参照してください)
	D 製造元情報/住所
	E シリアルナンバー ¹⁾
	F 製造日 ²⁾
	G 医療機器のマーク
	H 警告 ご使用になる前に、取扱説明書をお読みください。安全性に関する重要な注意事項をよくお読みください(警告や注意など)。
	I 関連製品を示す製造元の製品番号
	J シリアルナンバー(PI) ³⁾ 、 ¹⁾
	K 国際商品識別コード(DI) ⁴⁾

1) YYYY = 製造年、WW = 製造週、PP = 製造場所、XXXX = 製造番号(連番)

2) YYYY = 製造年、MM = 製造月、DD = 製造日

3) 機器識別情報(UDI-DI) からGS1識別コード、UDI = 機器固有識別子、PI = 製造識別子

4) 機器識別情報(UDI-DI) からGS1識別コード、UDI = 機器固有識別子、DI = 機器識別子

4.5.2 警告ラベル表示

ラベル表示	説明
	モビリティに制限のある方のため、移動する車両に本製品を固定する際の固定点

5 納品

5.1 納品時のパッケージ内容

- ・ 使用準備の整った車椅子
- ・ 取扱説明書(装着者用)

5.2 オプション

豊富に取り揃えられたオプションを利用し、標準バージョンをユーザーのニーズに合わせて実装していくことができます。オプションの使用法：15 ページ参照。

5.3 保管方法

5.3.1 日常での保管

車椅子は乾燥した場所に保管してください。

5.3.2 長期の保管

車椅子は乾燥した場所に保管してください。長期間保管する場合は、環境温度は、必ず -10°C および $+40^{\circ}\text{C}$ の間を維持してください。

車椅子を解体したり、折り畳む必要はありません。

長期間保管する場合、タイヤの変形を防止するために、PU素材のタイヤ(チューブレスタイヤ)の車椅子では膝レバーブレーキを解除してください。

タイヤには他の化学物質(洗剤、酸など)と反応する可能性のある化学物質が含まれています。

6 使用前の準備

6.1 組み立て

△ 注意

露出したピンチポイント

誤った取り扱いによる挟まり/挫滅の危険

▶ 車椅子を開く、または折りたたむ際は、把持できる場所として指定されている部品のみを握ってください。

△ 注意

使用前に使用準備が整っているか点検を行ってください

誤った取り付け、または調整による転倒や落下

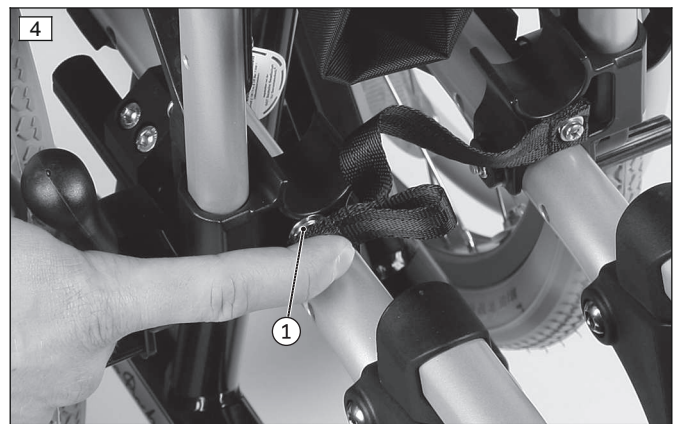
- ▶ 初めて車椅子を使用する前に、有資格担当者のサポートを受けながらお選びになった設定をチェックしてください。
- ▶ 組立てを行うたびに、駆動輪が適切に取り付けられていることを確認してください。クイックリリース軸は、受けプッシングにしっかりとロックされている状態にしてください。
- ▶ 特に転倒に対する安定性、駆動輪の潤滑な回り、ホイールロックの正しい機能性について、注意を払ってください。
- ▶ タイヤ圧を点検してください。正しいタイヤ圧はタイヤ側面に印刷されています。両側でタイヤ圧が同じであることを確認してください。

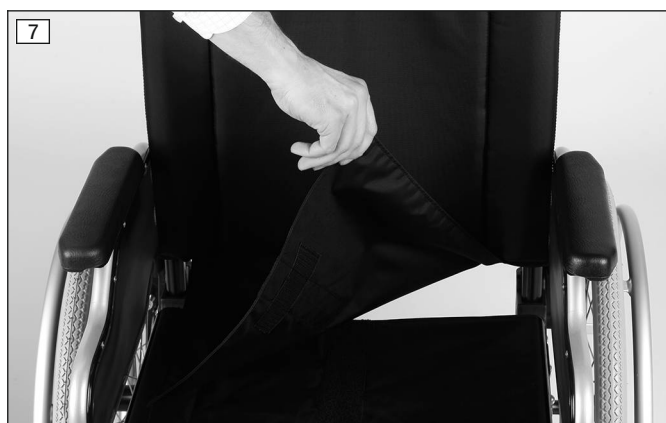
備考

解体/輸送に関して：35 ページ参照。

車椅子の使用準備のためにいくつかの簡単な手順に従ってください：

- 1) 駆動輪をQuickchange軸ハウジングに取り付けます：
 - Quickchange軸のボタンを押します (画像参照 3)。
 - 駆動輪を受けプッシングに取り付け、Quickchange軸のボタンを離します。
 - プッシュボタンを離した後、Quickchange軸は外せない状態になっている必要があります。
 - 情報：「ロックリリースアシスト」オプションに関しては「駆動輪」の章を参照してください。
- 2) プッシュボタンを押して安全ストラップを緩めます (画像参照 4、1)。
- 3) 車椅子を開きます (画像参照 5)。
備考: 車椅子の横に立ち、自分の方向に少し傾け、その位置から一番近いシートカバーの縁を押します。
- 4) 必要な場合: レッグサポートをホルダーに挿入します (17 ページ参照)。
- 5) フットプレートを下に畳みます (画像参照 12)。
- 6) 必要な場合: 固定できるフラップの一部を前に引いてシートカバーにしっかりと固定します。(画像参照 7)。
- 7) シートクッションを取り付けます。シートクッションは、面ファスナーに押し付けることにより、滑らないよう固定できます。





7 使用方法

7.1 その他の詳細な取扱説明

- ・ 負荷（リュックサックなど）をかけると安定性に悪影響を及ぼすことがあります。車椅子に追加的な負荷を吊り下げることは禁止されています。
- ・ 操作時の手動車椅子に推奨されている全幅は 700 mmです。この仕様の場合、避難経路などを問題なく通過することができます。特大幅のシートが取り付けられているバージョンでは製品の寸法がこの推奨値を超えていることがある点にご注意ください（詳細は 44 ページ参照を参照）。
- ・ このシリーズの車椅子は電車での車椅子移動に関する最低技術要件を完全にクリアしています。しかし、設計のバリエーションにより、全ての車椅子がこの最低要件を満たしていないことがあることに点にご注意ください（詳細は 46 ページ参照を参照）。

7.2 乗り込みと移動

⚠ 注意

乗り込み時の誤った取り扱い

誤った取り扱いによる転倒、落下、または転がり

- ▶ 乗り込む/降りる前、または車椅子へ/から移動する際には必ずホイールロックをかけてください。
- ▶ できるだけ車椅子の横から乗降するようにしてください。
- ▶ 乗降時には決してフットプレートを踏まないでください。
- ▶ 乗降時にホイールロックで体を支えないでください。

⚠ 注意

車椅子で前のめりした際にキャスターホイールが誤った位置にある場合の危険

誤ったキャスター位置による転倒、落下

- ▶ 車椅子で前のめりの姿勢を取る（靴ひもを結ぶなど）前に、車椅子の安定性を最大限確保してください。
- ▶ そのために、キャスターが前に来るまで車いすを後方に押しします。

ユーザーは自分に一番合った車椅子乗降方法を選択することができます。そのプロセスを療法士と話し合い、練習をしてください。

原則的に、フレームパイプ、シート底面、サイドパネルは乗り込み時のサポートとして利用することができます。一人で乗り込むことができない場合は、車いすへの移動、乗り込みは常に補助者のサポートを受けながら行ってください。製造元は移動ボードなどの乗り込みのための補助具もご用意しています。

7.3 レッグレスト

⚠ 警告

地面とのクリアランスが短くなっている「足で前進させる車椅子」オプション
障害物に引っかかり転倒、転落するおそれがあります

- ▶ 「足で前進させる車椅子」オプションのある車椅子では、下肢の長さとお前部座席の高さの設定に応じて、最低地上高40 mmを下回っていることがある点にご注意ください。
- ▶ 地面とのクリアランスが短くなっている状態に合わせ、階段、縁石、敷居といった地面にある障害物に特に注意を払って走行してください。

レッグサポートはユーザーの足をサポートします。

レッグサポートの高さは、ユーザーの下肢の長さに合わせて有資格者により既に調整されています。

フットサポートの角度は足首が快適な位置を取れるように有資格者により設定されています。

ご注文内容に応じて異なるタイプのレッグサポートおよびアクセサリが搭載されています：

「角度調整可能」なレッグサポート (画像参照 8)

フットサポートの奥行は 160 mmです。レッグサポートは乗降を容易にするために折り畳むことができます。

「分割型、角度調整可能」なレッグサポート (画像参照 9)

レッグサポートは乗降を容易にするために個別に折り畳むことができます。

「リフト式」レッグサポート (画像参照 10)

このレッグサポートでは脚の位置を異なる角度に調整することができます。

切断肢レスト (画像参照 11)

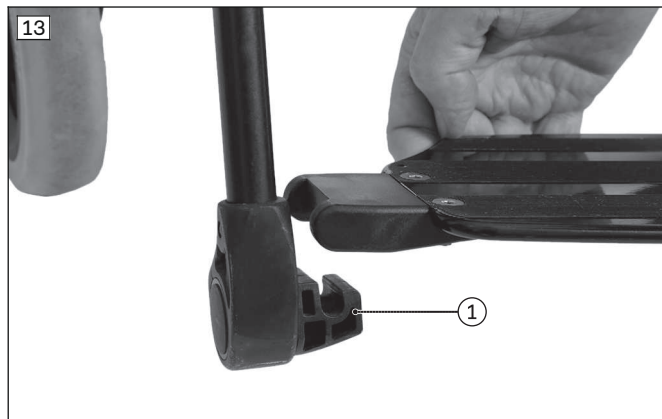
「リフト式」レッグサポートの代わりに搭載することができます。



7.3.1 フットプレートを上/下にする

- 1) フットプレートの端を掴んで上/下げます (画像参照 6)。

- 2) 分割型ではないフットプレートが付いたレッグサポートの場合のみ：フットプレートがしっかりレシーバー（画像参照 13）に挿入、ロックされていることを確認してください。



7.3.2 カーフストラップの取り外しおよび締め付け

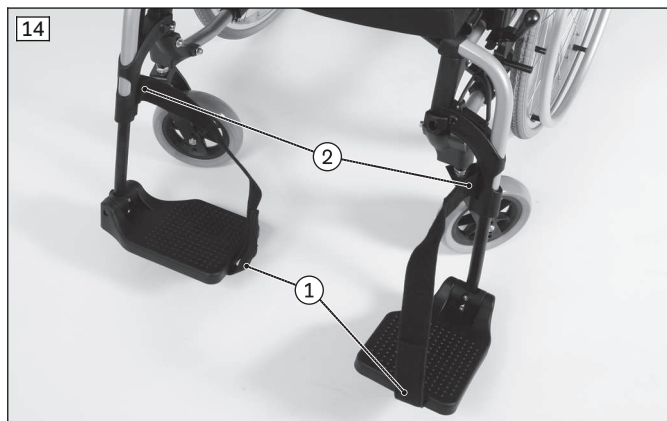
カーフストラップはユーザーの足を追加でサポートします。これはまた足がフットプレートから危険な位置に滑り落ちてしまうことを防止します。カーフストラップはお手入れのために取り外すことができます。

カーフストラップの締め付け

- 1) 全ての面ファスナーを開けます。
- 2) カーフストラップをフットプレートにある穴に通します（画像参照 14、 1）。
- 3) もう一つの末端部を旋回部分にある穴に通します（画像参照 14、 2; 画像参照 15）。
- 4) 長さを調整し、面ファスナーを締めます（図示なし）。

カーフストラップの取り外し

- 1) 面ファスナーを開けます。
- 2) フレームパイプからカーフストラップを外します。



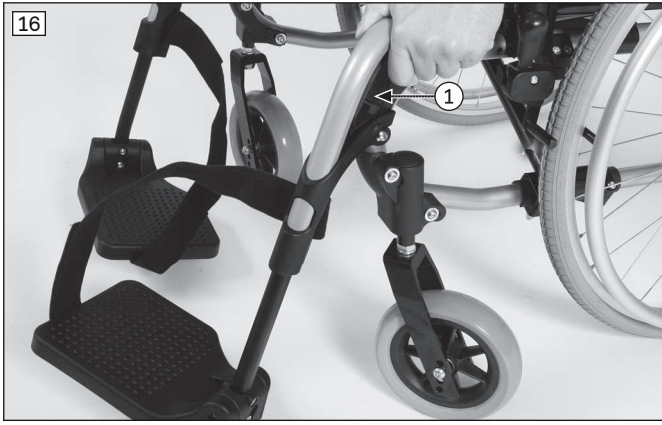
7.3.3 レッグサポートの取り外し/取り付け

「分割型、角度調整可能」なレッグサポートの取り外し

- 1) フットプレートを上に置みます。
- 2) レッグサポートのバーを後ろ、下に押し込みます（画像参照 16、 1）。
- 3) レッグサポートを外側、そしてサイドに向かって 90°（画像参照 17、 1）回転させ、上に引いて外します（画像参照 17、 2）。

「角度調整可能」なレッグサポートの取り付け

- 1) レッグサポートを横向き 90° に広げた状態で把持し、ピボット軸受をレッグサポートホルダーに挿入します（画像参照 17、 2）。
- 2) レッグサポートをロックされるまで進行方向に振り出します。
- 3) フットプレートを下に置みます。

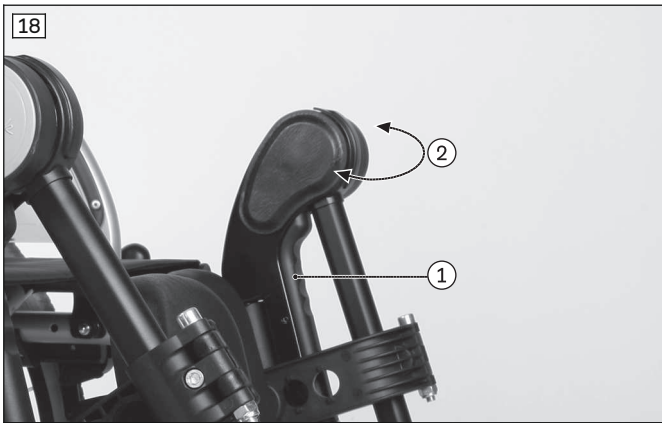


「リフト式」レッグサポート/切断肢サポートの取り外し

- 1) リリースレバーを解除します (画像参照 18、 1)。
- 2) レッグサポートを外側、そしてサイドに向かって 90° (画像参照 18、 2) 回転させ、上に引いて外します。

「リフト式」レッグサポート/切断肢サポートの取り付け

- 1) レッグサポートを横向き 90° に広げた状態で把持し、ピボット軸受をレッグサポートホルダーに挿入します (画像参照 19、 1)。
- 2) レッグサポートをロックされるまで進行方向に振り出します (画像参照 18、 2)。



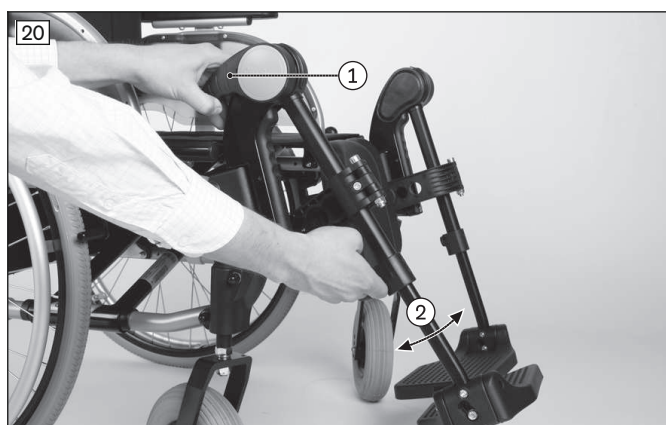
7.3.4 「リフト式」レッグサポートの角度調整

レッグサポートを下げる

- 1) リリースレバーをストッパにあたるまで上方向に回します (画像参照 20、 1)。
- 2) それと同時にご希望の角度になる位置までレッグサポートを下げます (画像参照 20、 2)。
- 3) リリースレバーを下に戻します。レッグサポートが次の空いている位置に自動的にカチッという音と共に入ります。

レッグサポートの振り上げ

- 1) レッグサポートを掴んで上に引き上げます (画像参照 20、 2)。
- 2) レッグサポートがご希望の位置になったら手を離します。レッグサポートは自動的にその位置にロックされます。



7.3.5 レッグサポートの調整

これ以外の調整変更は有資格者のみが行ってください。

7.4 シートとバックレストカバー

⚠ 警告

シートクッションおよびバックレストパッドの発火の危険

ユーザーが火傷を負うおそれがあります

- ▶ シート、バックレストカバー、シートクッション、パッド、カバーは耐燃性基準の要件を満たしています。ただし、火気を不適切または不注意に扱うと点火するおそれがあります。
- ▶ あらゆる火元、とくにタバコの火からは離れてください。

⚠ 注意

シートとバックレストカバーの摩耗

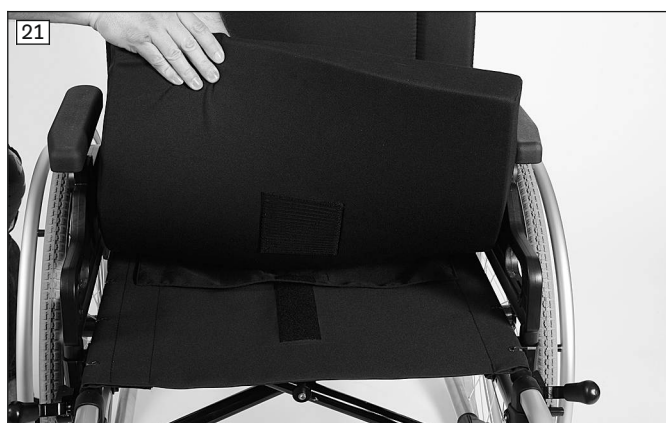
禁止された状態のまま使い続けることで、機能が喪失するおそれがあります。

- ▶ シートおよびバックレストカバーに破損が見られる場合は、速やかに交換してください。

この製品にはシートとバックレストカバーが取り付けられています。シートカバーの面ファスナーはシートクッション取り付けに使用されます。シートクッションは車椅子使用中にかかる圧力を吸収します。これはユーザーのニーズに応じて有資格者により設定されています。

7.4.1 シートクッションの取り外し/固定

- 1) シートクッションをシートカバーに載せ、滑らないように面ファスナーに押し付け固定します (画像参照 21)。
- 2) シートクッションをカバーの面ファスナーから取り外します。



7.4.2 バックレストパッドの取り外し/固定

バックレストパッドはお手入れのために車椅子から外すことができます。

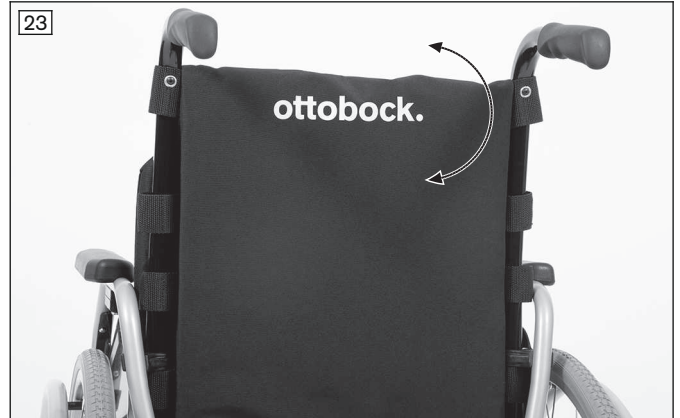
バックレストパッドの取り外し

- 1) シートクッションを外します。
- 2) バックレストパッドのフラップを引き、シートカバーから外します (画像参照 22)。

- 3) バックレストパッドを後ろに引き、バックレストカバーの面ファスナーストラップから引き、外します（図示なし）。

バックレストパッドの固定

- 1) 後ろからバックレストパッドの縁を上の方ファスナーにあてます。
- 2) バックレストパッドを下げ、カバーストラップに面ファスナーで固定します（画像参照 23）。
- 3) 固定できるフラップの一部を前に引いてシートカバーに面ファスナーで固定します（画像参照 22）。



7.5 バックレスト

⚠ 警告

角度調整可能なバックレストの誤った使用

転倒防止具無しでの使用による転倒、落下の危険

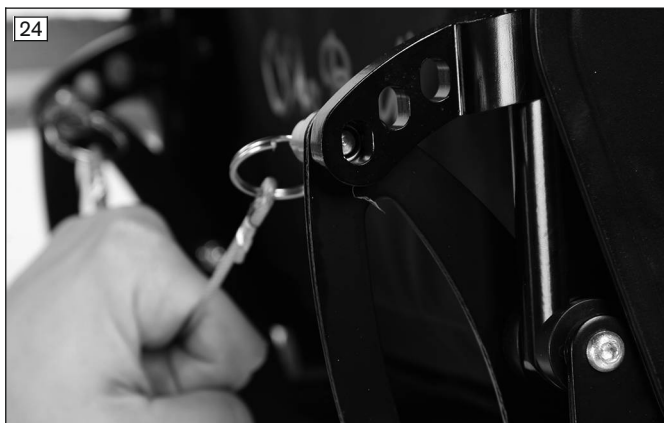
- ▶ バックレストの角度調整は重心点を移動させます。バックレストの角度調整は転倒防止具を有効位置に設定した状態でのみご利用ください。
- ▶ 公道を走行する場合、バックレストは垂直状態でのみ使用してください。

この製品には固定式、またはオプションの角度調整可能バックレストが装備されています。

「バックレスト角度調整30°」オプション

このオプションではバックレストの角度を90° ~ 120° の範囲で無段階調整することができます。

- 1) バックレスト解除機構のケーブルを角度調整がロックピンで解除される位置まで引きます（画像参照 24）。
- 2) バックレストをご希望の位置へ移動します（画像参照 25）。
- 3) ケーブルを離します。ロックピンが両側でしっかりはまっていることを確認します。



7.6 サイドパネル

⚠ 注意

サイドパネルにより挟まれる危険

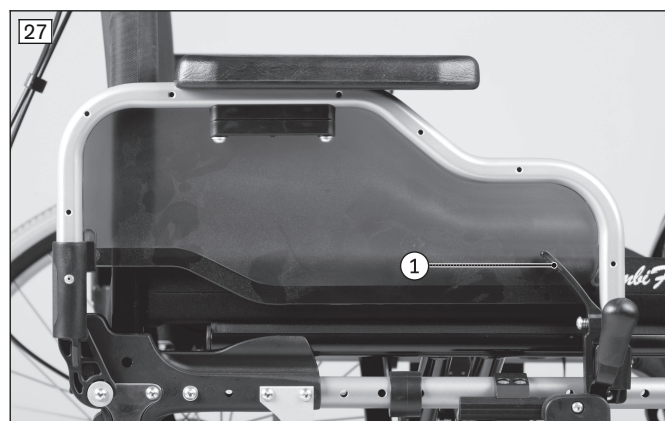
危険な領域に不注意に触れることで発生する挟まれ、圧潰

- ▶ サイドパネルまたはフレーム部品に身体部位を挟まれないようご注意ください。

サイドパネルはユーザー、そしてユーザーの衣服に汚れが付着することを防止するものです。車椅子にアームレストが取り付けられている場合、ユーザーは前腕の追加的なサポートとして利用することができます。

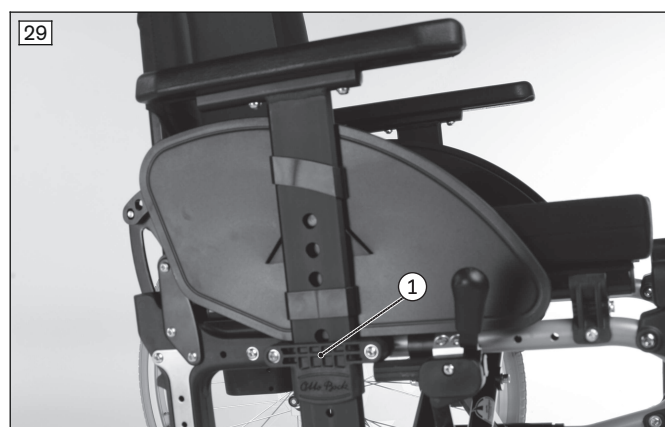
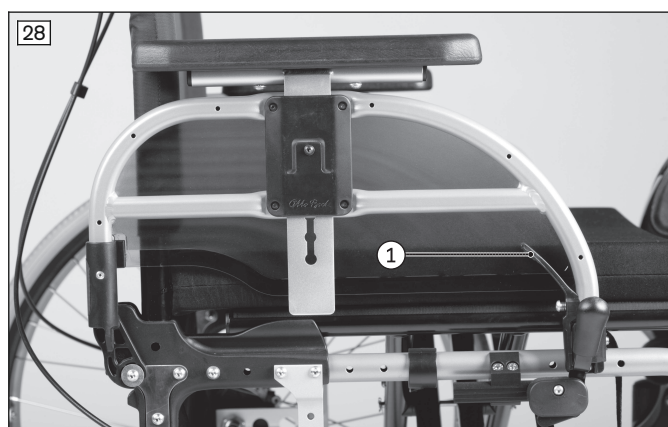
車椅子には異なるタイプのサイドパネルを搭載することができます：

「スタンダード」サイドパネル (画像参照 26); 「段付き」机用サイドパネル (画像参照 27)
ロック機構を有効にした後、サイドパネルを後方に振り上げ、移動のために取り外すことができます (1を参照)。



「高さ調整可能」なサイドパネル (画像参照 28)
ロック機構を有効にした後、サイドパネルを後方に振り上げ、移動のために取り外すことができます (1を参照)。前腕サポートの高さも工具を使用することなく調整することができます。

「はめ込み式」サイドパネル (画像参照 29)
このサイドパネルは車椅子乗降のために引き上げアダプターから取り外すことができます (1)。前腕サポートの高さも調整することができます。



7.6.1 サイドパネルを振り上げる/降ろす

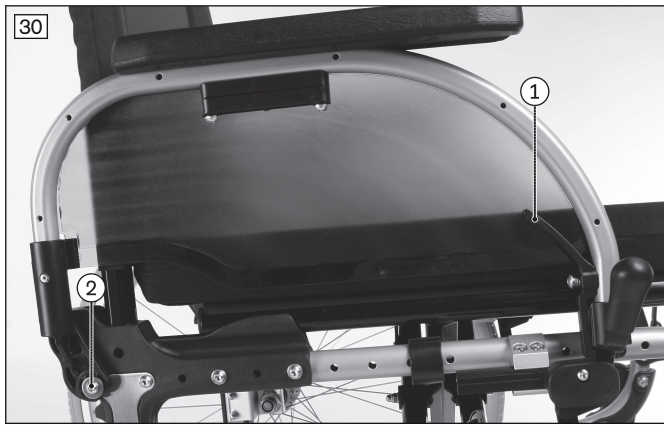
車椅子の乗降や輸送をより容易にするため、サイドパネルは折り畳むことができます。

「スタンダード」、「段付き」、「高さ調整可能」サイドパネルを振り上げる

- 1) ロック機構を押します (例: 画像参照 30、1)。
- 2) サイドパネルを軸回転させ後ろに向かって振り上げます (例: 画像参照 30、2)。

「スタンダード」、「段付き」、「高さ調整可能」サイドパネルを戻す

- 1) サイドパネルを前に畳みます。
- 2) ロック機構がサイドパネルアダプターにカチッとハマらなければなりません。
備考: サイドパネルがサイドパネルアダプターにしっかりとハマっているかを確認します。



7.6.2 前腕サポートの高さ調整

「スタンダード」サイドパネル、「段付き」机用サイドパネル
その後行われる前腕サポートの高さ調整は有資格者のみが行ってください。

「はめ込み式」サイドパネル

- 1) ボールペンまたはドライバーで皿穴ロックボタンを押します (画像参照 31)。
- 2) サイドパネルをご希望の位置にスライドさせます。
注意! ロックボタンは誤った操作を防止するために皿穴形状になっています。ロックボタンを押すには常に適切な物品/工具を使い、指は使わないでください。

「高さ調整可能」なサイドパネル

工具を使用することなく、前腕サポートの高さを異なる位置に調整することができます。

- 1) 丸い開口部にあるロックボタンをストッパにあたるまで押します (画像参照 32)。
- 2) 前腕サポートをご希望の位置へスライドさせます。
- 3) ロックボタンを放します。前腕サポートは自動的にその位置にロックされます。



7.6.3 サイドパネルの取り外し

車椅子への乗降やその輸送をより容易にするため、サイドパネルを取り外すことができます。

「スタンダード」、「段付き」、「高さ調整可能」サイドパネルの取り外し

- 1) ロック機構を押します (上記)。
- 2) サイドパネルを後ろに 45° 上げます。
- 3) 後ろの取り付け部からサイドパネルを外し (画像参照 33、 1) 対角線上後ろ/上へ引き出します (画像参照 33、 2)。

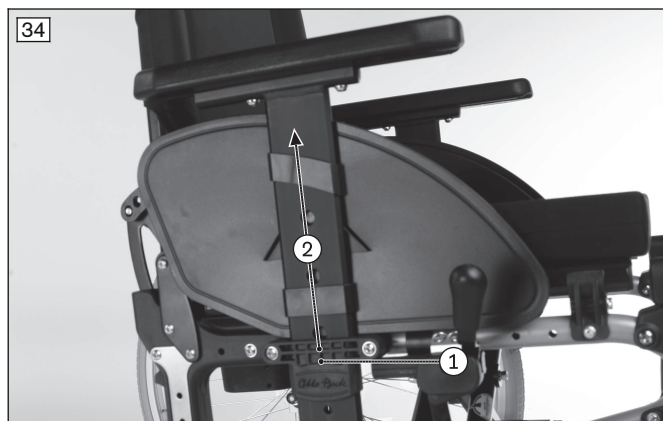
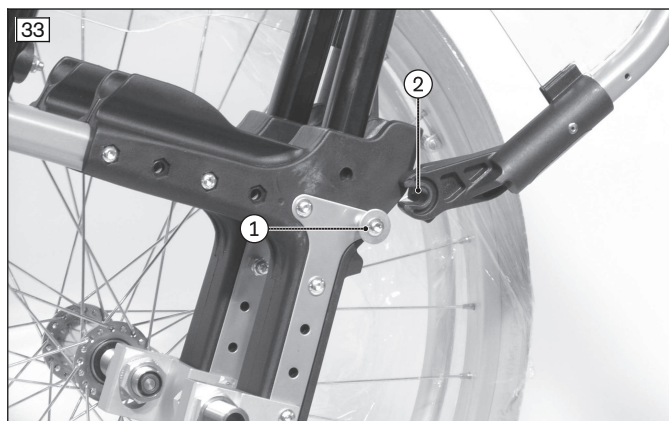
「スタンダード」、「段付き」、「高さ調整可能」サイドパネルの取り付け

- 1) サイドパネルを取り付け部にはめます (画像参照 33、 1)。
- 2) サイドパネルを前に置みます。ロック機構がはまります。

「はめ込みタイプ」サイドパネルの取り外し/取り付け

- 1) サイドパネルをアダプターから引き出します (画像参照 34、 1/2)。

2) 乗車後サイドパネルをサイドパネルアダプターに再び挿入します。



7.6.4 旋回ユニットを取り付けたアームサポートの調整

備考

旋回ユニット調整後は、ロックピンが所定の位置にしっかりとハマっていることを常に確認してください。

旋回ユニットではアームサポートのサポート角度と回転位置を個別に調整することができます。また、旋回ユニットはモジュール式前腕サポートの使用に必要となるユニットです。

サポート角度の調整

- 1) リリースボタンを引き出します (画像参照 35、 1)。
- 2) アームサポートの前端を持ち上げご希望の角度に調整します (画像参照 35、 2)。
- 3) リリースボタンを離します。アームサポートはご希望の位置に固定されます。

15° 毎に回転位置を調整

- 1) リリースボタンを下に引きます (画像参照 36、 1)。
- 2) アームサポートをご希望の回転位置に移動させます。
- 3) リリースボタンを離します。アームサポートはご希望の位置に固定されます。

回転位置を無段階調整

- 1) リリースボタンを下に引きます (画像参照 36、 1)。
- 2) リリースボタンを90° 回転させます。この位置になるとアームサポートは自由に回転できます。
- 3) アームサポートをご希望の回転位置に移動させます。
- 4) リリースボタンを離します。アームサポートはご希望の位置に固定されます。

アームサポートの深さ調整

- 1) アームサポートの下にある六角穴付きボルトを緩めます (画像参照 36、 2)。
- 2) アームサポートをご希望の深さに移動させます。
- 3) アームサポートの下の六角穴付きボルトを締め直します。 (画像参照 36、 2)。



7.7 プッシュハンドル

プッシュハンドルは補助者が車椅子を押す作業を容易にするものです。
一部のプッシュハンドルでは、補助者のニーズに応じて高さを調整できるように設計されているものがあります。

7.7.1 プッシュハンドルの高さ調整

車椅子のプッシュハンドル(「伸縮式」プッシュハンドル: 画像参照 37、および「高さ調整/取り外し可能」プッシュハンドル: 画像参照 38)は補助者が快適に使用できるように高さを調整することができます。

- 1) クラмпレバーを解除します。
 - 2) プッシュハンドルの高さを調節します。
 - 3) クラмпレバーをしっかりと締めます。
- プッシュハンドルは両側で同じ高さになるように調節してください。



7.7.2 プッシュハンドルの取り外し

「高さ調整/取り外し可能」タイプのプッシュハンドルは必要に応じてバックレストのパイプから取り外すことができます。

プッシュハンドルの取り外し/取り付け

- 1) クラмпレバーを解除します (画像参照 39、 1)。
 - 2) 三脚バネを押し込み (画像参照 39、 2) プッシュハンドルをアダプタから上に引き抜きます (画像参照 39、 3)。
 - 3) 取り付けには三脚バネを再び押し込み、プッシュハンドルをアダプタに挿入します。
 - 4) クラмпレバーをしっかりと締めます (画像参照 39、 1)。
- プッシュハンドルは両側で同じ高さになるように取り付けてください。



7.8 スタビライザーバー

プッシュハンドルをつなぐスタビライザーバーは特に負荷が大きい場合、車椅子の安定性を向上させます。(画像参照 40)。車椅子を畳む前に開く必要があります。

スタビライザーバーを開く

- 1) 右側の星形ハンドルを緩めます (画像参照 41、 1)。
- 2) スタビライザーバーを下げます (画像参照 41、 2)。

スタビライザーを取り付ける

- 1) スタビライザーを切り込みが星形ハンドルのネジにはまる位置まで上げます。
- 2) 星形ハンドルを締めます。



7.9 駆動輪

⚠ 警告

取り外し可能な車輪の不適切な組み立て
車輪の外れによるユーザーの転倒の危険

- ▶ 組み立て完了後には毎回、取り外し可能な車輪が正しく装着されていることを確認してください。クイックリリース軸は車輪アダプタにしっかりとロックされている状態にしてください。

⚠ 注意

露出した駆動部に手を触れないでください

誤った取り扱いによる挟まり/挫滅

- ▶ 本製品走行中に駆動輪とホイールロックの間、または駆動輪とサイドパネルの間に手を入れないでください。
- ▶ 本製品走行中に回転している駆動輪のスポークには触れないでください。

⚠ 注意

破損のあるタイヤ

けん引力低下、制動力低下、または操作力低下による落下/事故の危険

- ▶ タイヤに十分な溝の深さがあるか確認してください。
- ▶ タイヤ(トレッド面が最大 5 mm タイヤの縁まで伸びている、割れ)またはリムに破損が見られる場合、駆動輪を交換してください。

⚠ 注意

ハンドリムのブレーキによる熱の発生

手の保護が十分でないと火傷を負うおそれがあります。

- ▶ 高速で走行する際は、車椅子用手袋を装着してください。

この車椅子は駆動輪上のハンドリムを使って移動、操縦、制動、停止することができます。
輸送を簡易化するため、Quickchange軸が搭載された駆動輪を車椅子から外すことができます。

7.9.1 駆動輪の取り付け/取り外し

⚠ 注意

車輪の誤った取り外し/取り付け

誤った取り付けによる転倒や落下の危険

- ▶ 車椅子にユーザーが乗った状態で車輪の交換をすることは禁止されています。
- ▶ 車輪交換を行うときには、車いすを固い地面に設置してください。
- ▶ 車輪交換の際には車椅子が転倒したり転がらないよう固定してください。
- ▶ 駆動輪がしっかりとロックされない、または横方向への遊びが大きすぎる場合は、担当の有資格者に至急ご連絡ください。

- 1) ホイールロックを解除します。
- 2) ハブ近くのスポークの間にある場所を指で握ってください。
- 3) 親指を使ってQuickchange軸のボタンを押します。
- 4) 駆動輪アダプターを取り付ける/取り外します。
取り付け後: 駆動輪はQuickchange軸のプッシュボタンから指を離した後は、外せない状態になっている必要があります。



7.9.2 スポークプロテクター

スポークプロテクターは車輪のスポークに指が挟まれることを防止します。

7.10 キャスターとキャスターフォーク

⚠ 警告

キャスターまたはキャスターフォークの不具合
車椅子の転倒による落下や重度の負傷

- ▶ キャスターとキャスターフォークに破損がないか定期的に点検してください。
- ▶ 特に動きが鈍い場合、キャスター軸とキャスターフォークのねじ山軸は定期的に清掃しオイルをさしてください。
- ▶ 走行特性が元に戻らない変化があった場合、有資格担当者に至急ご連絡ください。

⚠ 注意

車椅子で前のめりした際にキャスターホイールが誤った位置にある場合の危険
誤ったキャスター位置による転倒、落下

- ▶ 車椅子で前のめりの姿勢を取る（靴ひもを結ぶなど）前に、車椅子の安定性を最大限確保してください。
- ▶ そのために、キャスターが前に来るまで車いすを後方に押します。

キャスターとキャスターフォークの組み合わせにより、直線を蛇行することなく、カーブを安全に走行することができます。

キャスターとキャスターフォークはユーザーのニーズに応じて有資格者により選択されています。

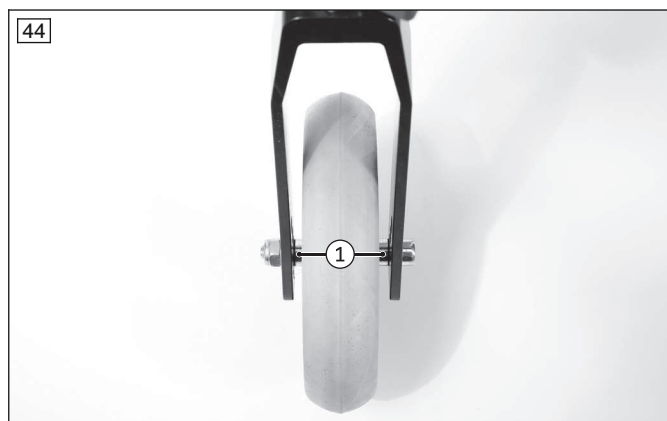


7.10.1 動きが鈍い場合の措置

動きが鈍い場合、キャスト軸を清掃、潤滑してください。

キャスト軸の潤滑

- 1) 汚れ（髪の毛など）をキャストとキャストフォークの間にあるキャスト軸から取り除きます（画像参照 44、1）。
- 2) キャストとキャストフォークの間にあるキャスト軸に樹脂を含有しないオイル（マシン用オイル）を薄く塗布します。



7.11 ホイールロック

⚠ 警告

不適切なブレーキの使用により発生する危険

急ブレーキによる落下、手の圧挫損傷

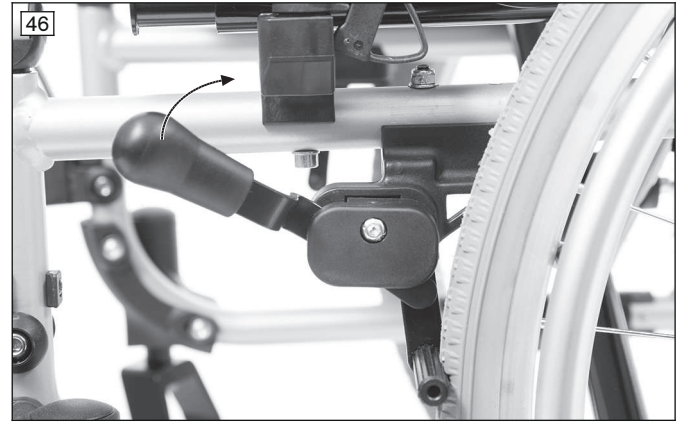
- ▶ ホイールロックは走行を停止するためのものではありません。
- ▶ 常に両側のブレーキが固定されていることを確認してください。
- ▶ ホイールロックはでこぼこ道に停車した場合、または輸送中(例 車の中)、車椅子の転がりを防ぐためのものです。
- ▶ 本製品走行中は、後輪とホイールロックの間に手を伸ばさないでください。
- ▶ 膝レバー・ブレーキが正しく調整されていることを確認してください（タイヤへの隙間最大 5 mm）。静止状態ではロックボルトが駆動輪を確実にロックしている状態であればなりません。
- ▶ ホイールロックの再調整は、製品を調整した有資格者までご連絡ください。

ホイールロックは駐車時に車椅子の転がりを防止します。
ご注文内容に応じて異なるタイプのホイールロックが搭載されています。

7.11.1 ホイールロックの使用

膝レバー・ブレーキの起動/停止

- 1) 膝レバー・ブレーキのハンドルを前方へ押します。（画像参照 45）。
→ ホイールロックのボルトが車輪を固定します。
- 2) ホイールロックレバーを上を引きます（画像参照 46）。
→ ホイールロックレバーは車輪を解除します。



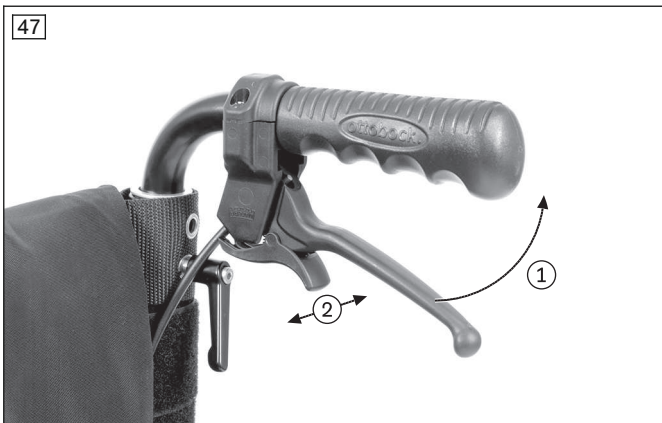
7.11.2 ドラムブレーキ

ドラムブレーキは、補助者がプッシュハンドルにあるホイールロックレバーを作動させることにより、簡単で安全に車椅子の速度を落とすことができます。

ホイールロックレバーが有効になっていると、ブレーキパッドがブレーキドラムに押し付けられています。ホイールロックレバーが解除されていても、クイックリリース軸により駆動輪を外すことができます。

ドラムブレーキの起動/停止

- 1) ブレーキレバーを引きます (画像参照 47、 1)。
- 2) 必要に応じてロックスライドを使い、追加でブレーキレバーを固定します (画像参照 47、 2)。
- 3) ブレーキレバーを再び作動させるか、ロックスライドを押しブレーキを解除します。ブレーキレバーが解除されていても、Quickchange軸により駆動輪を外すことができます。



7.11.3 ユーザーと補助者のための膝レバー・ブレーキ

このタイプのホイールロックはユーザー、補助者どちらも利用することができます。

備考

- ▶ ユーザーによるホイールロックの操作は上記膝レバー・ブレーキのものと同じです。
- ▶ 補助者によるホイールレバーの操作は上記のドラムブレーキのものと同じです。

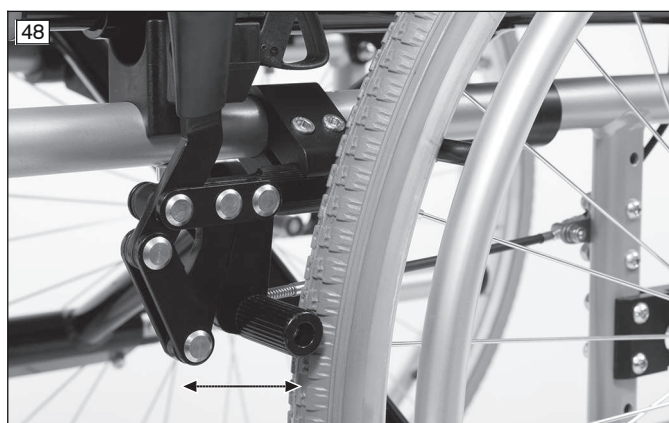
ユーザーによる作動/停止

- 1) 膝レバー・ブレーキのハンドルを前方へ押します (画像参照 48、 1)。
 - ホイールロックのボルトが車輪を固定します。(画像参照 48、 2)。
- 2) ホイールロックレバーを上に戻します (画像参照 48、 1)。
 - ホイールロックボルトが車輪を解除します (画像参照 48、 2)。

補助者による作動/停止

- 1) ホイールロックレバーを引きます (画像参照 49、 1)。
- 2) ロックスライドを使って追加的にホイールロックを固定します (画像参照 49、 2)。
 - ホイールロックのボルトが車輪を固定します。(画像参照 48、 2)。

- 3) ホイールロックレバーを再び作動させるか、ロックスライドを押しホイールロックを解除します (画像参照 49、1/2)。
→ ホイールロックボルトが車輪を解除します (画像参照 48、2)。



7.11.4 ホイールロックレバーエクステンションの使用

「後付けホイールロックレバーエクステンション」では膝レバー・ブレーキの使用が簡単になります。ホイールロックレバーエクステンションは車椅子の乗降をより容易にするため、下向きに折りたたむことができます。ホイールロックレバーエクステンションはホイールロックレバーにゴムバンドで取り付けられます。

ホイールロックレバーエクステンションの取り外し/取り付け

- 1) ホイールロックレバーエクステンションのハンドルを前か上に引きます (画像参照 50)。
- 2) ホイールロックレバーエクステンションのハンドルを前か横に倒します。
- 3) 取り付けにはホイールロックレバーエクステンションのハンドルを引き、ホイールロックレバーにホイールロックレバーエクステンションをスライドさせ戻します。



7.12 ラップベルト (シートベルト)

⚠ 注意

誤った調整のラップベルト

取り付け/調整方法の誤りにより、ユーザーの座る位置の不具合、疾患と原因となります

- ▶ 義肢製作施設にて行った設定は変更しないでください。設定に問題がある場合 (座る位置の不具合) は、調整を行った有資格者にご連絡ください。
- ▶ ラップベルトは体にぴったりと沿っている必要があり、ユーザーの負傷をまねく可能性があるため、きつく締めすぎないでください。ベルトと腿の間に指を2本通せる状態にしてください。
- ▶ ベルトシステムの設定は定期的に点検してください。ユーザーが成長している場合、病状に変化がある場合、異なる衣服を着用している場合は、再調整が必要となることもあります。

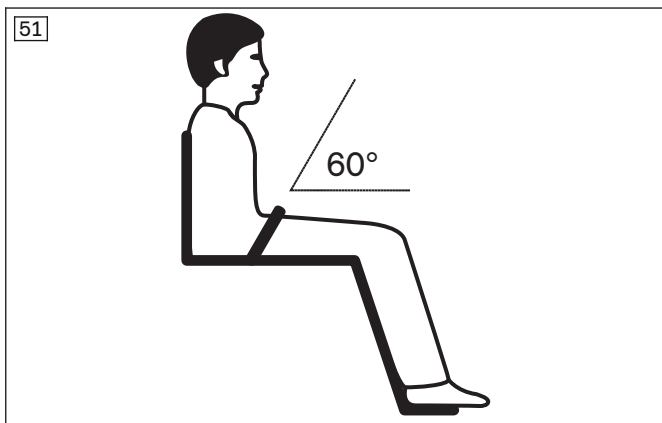
ラップベルト (シートベルト) は車椅子の上で滑ってしまわないように、ユーザーを正しい位置にキープします。必要に応じて、有資格者が取り付けを行い、ユーザーのニーズに合わせて調整します。部品を後で追加で取り付ける場合は、この製品を納品した有資格者までお問い合わせください。

ラップベルトの使用

- 1) バックルを開きます。
- 2) ユーザーに（身体的に可能であれば）背筋を90° 伸ばした状態で座ってもらいます。背中が（身体的に可能であれば）バックレストパッドにあたっていることを確認します。
- 3) バックルを締めます。
- 4) ラップベルトは座面に対して約60° の位置です。ベルトのストラップは骨盤の骨の上、腿の上を渡っている状態です（画像参照 51）。

考えられるエラー

- ・ ラップベルトが骨盤上にある柔らかい腹部にあたっている。
- ・ ユーザーがまっすぐ座っていない。
- ・ ラップベルトが緩すぎると、ユーザーが前に滑ってしまうことがあります。
- ・ 取り付け/調整時に、ラップベルトがシートシステム（前腕サポート、シートパッド など）の上を通っていると、ラップベルトの保持機能が失われます。



7.13 転倒防止具/振り出し式転倒防止具

△ 警告

誤って調整された転倒防止具

誤って調整された転倒防止具による転倒の危険。

- ▶ 転倒防止具の調整は有資格者のみが行ってください。

△ 警告

誤って調整された転倒防止具

本製品を誤って取り扱ったことにより発生するユーザーの転倒または落下

- ▶ 階段を通過する際に補助者が1名しかいない場合、補助者はまず輸送中に転倒防止具が階段に衝突しない、無効な位置に動かしてください。
- ▶ 補助者は階段を通過後転倒防止具を再び有効な位置に戻してください。

7.13.1 転倒防止具

△ 警告

転倒防止具を使用していない

安全装置の誤った操作によるユーザーの転落、転倒の危険

- ▶ 障害物または傾斜を走行する際は、取り付けられている転倒防止具を有効位置にしてください。
- ▶ 使用前にカチッと音がする位置（有効位置）に転倒防止具を入れます。ユーザーまたは補助者は正しくロックされているか確認してください。
- ▶ 転倒防止具は大腿切断者および経験の浅いユーザーに推奨されています。

転倒防止具は障害物を乗り越える時、また上り坂を走行するときに車椅子が後方に倒れることを防止します。

転倒防止具は地面との間隔が最大 50 mm に設定されており、そのため転倒防止ローラは少なくとも、駆動輪の最大直径を超える位置に完全に突出している必要があります。

取り付けられている転倒防止具は常に有効な位置に設定してください。

障害物を乗り越えるために車椅子を上へ傾けた時（階段、低くなっていない縁石 など）、転倒防止具の車輪が地面に接触します。

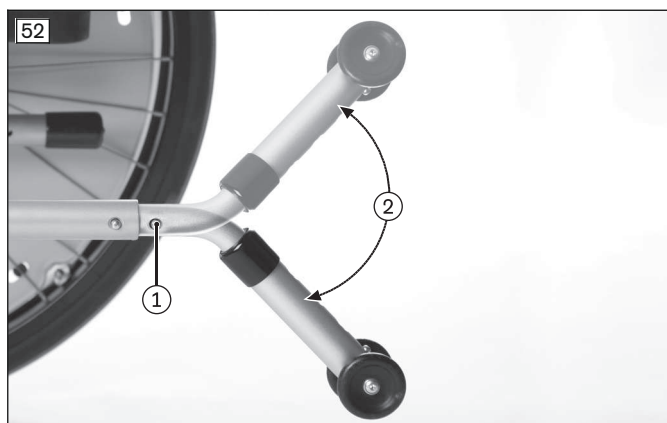
障害物を乗り越えるために車椅子を下に傾けた時（階段や高い縁石 など）、ユーザーまたは補助者は転倒防止具を破損することがないように転倒防止具を無効な位置に戻してください。

有効位置に入れる

- 1) 転倒防止具の上のパイプにあるバネボタンを押します（画像参照 52、 1）。
 - 2) 転倒防止具を下に 180° 回転させます（画像参照 52、 2）。
 - 3) バネボタンがロックされます。
- 転倒防止具が有効位置に入りました。

停止

- 1) 転倒防止具の上のパイプにあるバネボタンを押します（画像参照 52、 1）。
 - 2) 転倒防止具を上 180° 回転させます（画像参照 52、 2）。
 - 3) バネボタンがロックされます。
- 転倒防止具が無効位置に入りました。



7.13.2 振り出し式転倒防止具

△ 注意

不適切な方法での障害物を乗り越え

誤った操作によるユーザーの転落、転倒の危険

- ▶ 階段や縁石などを斜めに乗り越えないでください。障害物に対しては常にまっすぐ（角度90°）前進します。

振り出し式転倒防止具により、車椅子のユーザーは補助員の助けを借りずに安全に敷居や低い縁石を乗り越えることができます。車椅子の転倒を防止し、障害物を乗り越えた後自動的に元の位置に戻ります。

振り出し式転倒防止具は地面との間隔約20mm～30mm（最大 50mm）を想定して設定されており、そのため転倒防止具の外側のアームは駆動輪の最大直径を超える位置に突出しています。

敷居/低い縁石を乗り越える

振り出し式転倒防止具のアームは敷居や低い縁石を超える時に自由に振り出せるよう地面に向かって下がっています（画像参照 53）。

障害物を上に向かって乗り越えるとき、転倒防止具のアームが地面にあたり、車椅子が後方に転倒するのを防ぎます（画像参照 54）。

障害物を下に向かって乗り越えるときは、転倒防止具が邪魔にならないように、転倒防止具のフロントアームが障害物の端を越えて突き出ていなければなりません。

車椅子を（前方/後方に）押し続けると、転倒防止具は軸回転します（画像参照 55、 1）。障害物を乗り越えると、転倒防止具は開始位置に戻ります。



階段/縁石を乗り越える

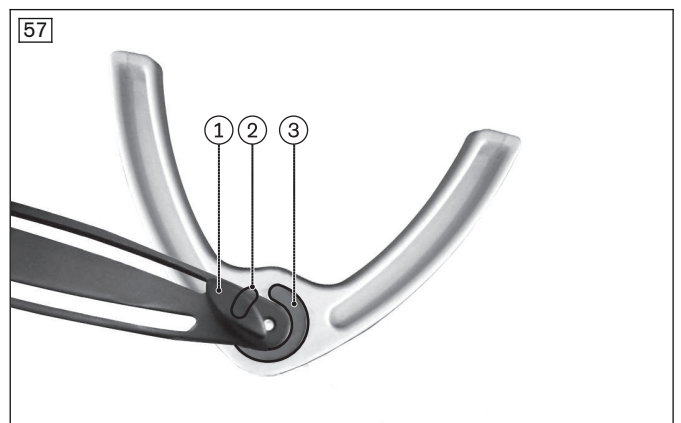
階段や縁石を乗り越える時、補助者は振り出し式転倒防止具を破損することがないように転倒防止具を無効な位置に戻してください。(画像参照 56)。

無効にする

- 1) 旋回位置 (画像参照 57、 3)から出るようにつまみネジ (画像参照 57、 1) を回転させます。
 - 2) 転倒防止具を上へ 180° 回転させます。
 - 3) 次に、つまみネジを中央ロック位置に入れます (画像参照 57、 2)。
- 転倒防止具が無効になり、これで障害物を前後で乗り越えることができます。

有効にする

- 1) 転倒防止具の上にあるつまみネジを緩めます (画像参照 57、 1)。
 - 2) 振り出し式転倒防止具を下へ180° 回転させます (図示なし)。
- 振り出し式転倒防止具が有効化されます (画像参照 53)。



7.14 輸送用車輪

△ 注意

駆動輪を外された状態での膝レバーブレーキ

膝レバーブレーキが効かなくなり事故、転落の危険

▶ 輸送用車輪が搭載された車椅子は補助者のみがブレーキをかけることができます。

△ 注意

誤った高さ設定

不均衡な設定による転落、横転の危険

▶ 両側の高さが常に同じになるよう調節してください。

輸送用車輪はとても狭い通路（電車、飛行機など）での移動を可能にします。

輸送用車輪が駆動輪を代替します。移動するためには、補助者が車椅子を押してください。

輸送用車輪の使用

> 使用前に両輸送用車輪が同じ高さになっていることを確認してください。

1) 駆動輪を外します。

可能な場合、ユーザーが車椅子に座っていない時にこの作業を行ってください。ユーザーが車椅子に座っている場合は、以下の手順を行ってください：

2) 駆動輪を順次地面から離すことができるように1人目の補助者が車椅子を安定した位置に保持します。

3) 2人目の補助者が順次まず1つ、次に2つ目の駆動輪を慎重に外します。

→ これで、輸送用車輪により車椅子を走行することが可能になります。



7.15 面ファスナーストラップ付き松葉杖ホルダー

松葉杖を面ファスナーストラップ付き松葉杖ホルダーを使って車椅子に取り付けることができます。



7.16 ヘッドレスト

ヘッド/ネックレストまたはヘッドレストは重度の症状が見られる様々なケースで頭部をサポートするものです。ヘッド/ネックレストまたはヘッドレストにはポリウレタンフォームを使用しており、洗剤と水で洗うことができます。

このオプションは必要に応じて有資格者が取り付けを行い、ユーザーのニーズに合わせて調整します。ヘッドサポートは車椅子輸送のために取り外すことができます。

ヘッドサポートを取り外す

- 1) クランプレバーを解除します (画像参照 60、 1)。
- 2) 調整パイプをヘッドサポートと一緒に引き抜きます (画像参照 60、 2)。

ヘッドサポートの取り付け

- 1) 調整チューブをヘッドサポートと一緒にストッパにあたる位置までクランプ箇所に挿入します (画像参照 60、 2/3)。
- 2) クランプレバーを締めます (画像参照 60、 1)。



7.17 トレイ

⚠ 注意

誤った調整

きつすぎる調整による圧潰または挟まりが発生するおそれがあります

- ▶ この部品を挿入する際にユーザーの体位が挟まらないように注意してください。

⚠ 注意

トレイに物を載せた状態での走行

固定されていない物品による負傷のおそれがあります

- ▶ 移動前にトレイ上の全ての物品を取り除いてください。

⚠ 注意

補助者による不適切な持ち上げにより発生する危険

取り外し可能なパーツの持ち上げによりユーザーが落下するおそれがあります

- ▶ 本製品は絶対にトレイをつかんで持ち上げないでください。

注記

過重負荷

装着者の不適切な使用により、製品が破損するおそれがあります

- ▶ トレイに重い物を載せないでください。
- ▶ トレイには座ったり寄りかかったりしないでください。

トレイは食事中、作業中、遊戯中に支持面として使用するものです。透明な素材により脚の状態を確認し、座位を修正することができます。

モビリティに制限のある方を車両で移動させる場合、トレイは事前に取り外してください。

トレイの取り付け/取り外し

- 1) トレイをアームサポートにスライドさせます。
 - 2) トレイをアームサポートから引き抜きます。
- 斜めにならないよう、トレイは常にアームサポートと平行に取り付け/取り外しを行ってください。



7.18 追加オプション

本製品には追加オプションが装備されていることがあります：

- ・ 医療用取り付けキット
- ・ ヘッドサポート取り付け用キット
- ・ 側胸部サポート（調整可能なバックレストカバーでのみ使用可能）
- ・ 現行のシートクッション製品群からのシートクッション

7.19 解体および輸送

注記

折り畳み時の変形

許可されていない負荷による製品の破損や折り畳み時のトラブル

- ▶ 折り畳まれた状態の製品には決して重いものを載せないでください。

備考

- ▶ 車椅子を車両に載せる際には、必要に応じて畳み、車輪とレッグサポートを取り外してください。
- ▶ 車椅子を飛行機で輸送する際にはIATA（国際航空運送協会）および各航空会社の規定に従ってください。出発日の数日前に航空会社と連絡を取ってください。必要な場合、モビリティ制限のタイプを知らせるためにSSR（特別サービスリクエスト）コードをご利用ください。このコードは、インターネットで調べることができます。

乗用車で車椅子を輸送する場合は、準備が必要です。

- 1) フットプレートを上にもみます（16 ページ参照）。
- 2) レッグサポート振り上げ、取り出し、脇に置いておきます（17 ページ参照）。
- 3) 必要な場合：シートクッションをカバーの面ファスナーから外します。（19 ページ参照）。
- 4) シートカバーを引き上げ車椅子を畳みます（画像参照 62）。
- 5) 安全ストラップを締めます（画像参照 63）。
- 6) 駆動輪を外します（25 ページ参照）。
- 7) 解体された車椅子を車両に載せます。



7.20 モビリティーに制限のある方が車で移動するために使用します

7.20.1 Start M6 Junior

⚠ 警告

モビリティーに制限のある方が車で移動するために使用します

ユーザーの操作ミスにより重度の負傷が発生するおそれがあります

- ▶ モビリティーに制限のある方を車両に載せて移動させる場合は、車両に設置されている安全拘束装置を必ず使うようにしてください。これは事故の場合、搭乗者の最適な保護を確実にする唯一の方法です。
- ▶ モビリティーに制限のある方が本製品を車両内で座席として使用する場合、製造元が提供する安全ユニットと適切な安全拘束装置を使用してください。詳細については、パンフレット（注文番号646D158）をご確認ください。
- ▶ 本製品に乗ることができるのは1名のみです。
- ▶ モビリティーに制限のある方を車両で移動させる時には、背もたれは垂直位置にしてください。
- ▶ 搭載されているオプションそれぞれの制限を確認してください（40 ページ参照）。

⚠ 警告

モビリティーに制限のある方が車両で移動する場合、車両のベルトシステムを安全拘束装置として使用することは禁止されています。

本製品の誤った取り扱いにより重度の負傷が発生するおそれがあります

- ▶ 本製品で提供されているベルトおよび座位決め補助具はモビリティーに制限のある方を移動させる車両安全拘束システムの一部としては使用できません。
- ▶ 本製品のベルトおよび座位決め補助具は、本製品に座っているユーザーをサポートすることのみを目的としています。

⚠ 警告

バックレスト角度を変えた状態でのユーザーの移動は禁止されています

ユーザーの誤った操作により安全拘束の効果が失われるおそれがあります

- ▶ 車両を使つての移動の場合、乗員は背筋を伸ばした状態で座ってください。
- ▶ バックレスト角度調整機構が装備されている場合は、移動の前にバックレストをできる限り垂直位置に近い状態に戻してください。
- ▶ 両側でロックされているかをご確認ください。

モビリティーに制限のある方が車両で移動する際に座席としての本製品を使用することは、以下に定義されている条件下、ISO 7176-19 に従った方法で製造元により検証済みです。

モビリティーに制限のある方が車で移動する際は、本製品が適切に固定されている必要があります。以下の図は、自動車に固定する例を示しています。

製造元は、使用される固定システムについて一切責任を負いません。適用される法的要件を満たし、またユーザーを含む本製品の総重量に合わせて設計された固定システムのみを使用してください。

モビリティーに制限のある方が車両で移動する場合の輸送重量は、最大許容ユーザー体重と同等とみなしてください(44 ページ参照)。

7.20.1.1 必要な付属品

車両移動するときにモビリティーに制限のある方の座席として本製品を使用するためには、追加のアクセサリを取り付ける必要があります：

- ・ 481S00=SK030 固定用キット
- ・ 代替として使用できるベルトループ 4本 (Unwin Safety SystemsまたはQ' Straint など)はISO10542-1に従った方法で試験済み

アクセサリに関する詳細情報は本車椅子を調整した有資格者にお問い合わせください。

7.20.1.2 車両内での本製品の使用

⚠ 警告

モビリティーに制限のある方を車で移動するための設置作業

ユーザーの操作ミスにより重度の負傷が発生するおそれがあります

- ▶ モビリティーに制限のある方を車で移動させるために車椅子を設置する作業は有資格者のみが行ってください。
- ▶ モビリティーに制限のある方を車両で移動させる時に本製品を座席として使用する場合、車椅子は進行方向に向いている必要があります。
- ▶ 以下に記されている取り付け時の注意を有資格者に伝えてください。

⚠ 警告

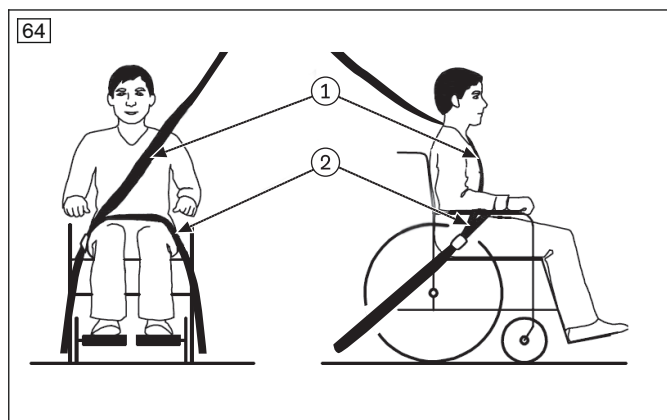
車両における不十分な安全性の確保による危険

輸送に関する指示に従わない場合、安全拘束装置が外れるおそれがあります

- ▶ モビリティーに制限のある方が車で移動する場合は、正しい安全輸送に関する以下の指示に従ってください。
- ▶ 必要な場合、有資格者に以下の情報を提供してください。

モビリティーに制限のある方を移動する車内での正しい安全輸送に関する一般情報

- ・ 安全拘束システムのベルトは常にユーザーの体にぴったりと沿うように通してください。ベルトはサイドパネルや車輪の上を渡さないでください (画像参照 64 item 2)。
- ・ ショルダーベルトは常にユーザーの肩の上を通るようにしてください (画像参照 64、1)。
- ・ ベルトのストラップがユーザーの体の上でねじれていないよう注意してください。



7.20.1.2.1 固定用キットの使用

モビリティーに制限のある方を車両で移動させる時の本製品の固定方法

モビリティーに制限のある方を車両で移動させる時は、固定用キットを使って車椅子を車内に固定します。固定点はシールでマーキングされています。シールはユーザーが安全ベルトシステムのフックを掛ける位置を示しています：

- 1) モビリティーに制限のある方を移動する車両に本製品を設置します。詳細情報はパンフレット (注文番号 646D158) の第5章「モビリティーに制限のある方を車両で移動」をご確認ください。
- 2) 車両に設けられている安全拘束装置のベルトを前後の取り付け穴にかけしっかりと締め上げます (画像参照 65)。
 - 付属ストラップが正しく配置されている製品 (画像参照 66)。



モビリティーに制限のある方を移動する車内での正しい安全輸送に関する情報

- ・ 「モビリティーに制限のある方を移動する車内での正しい安全輸送に関する一般情報」の章も確認して下さい。
- ・ モビリティーに制限のある方を車両に載せて移動させるには、車両に設置されている安全拘束装置を使用してください。車椅子に固定用キットが装備されている場合、モビリティーに制限のある方を移動させる車両では3点式安全拘束装置を以下のように取り付けます：
 - － 安全拘束装置のラップベルトは、通常、有資格者が、後ろの左右アンカーポイントアダプタの取り付け点/ピン（車両下部の車椅子用拘束ベルト）にそれぞれ取り付けます。
 - － 安全拘束システムのショルダーベルトは通常車両の支柱に取り付けられており、有資格者がラップベルト上にあるそれに対応する取り付け点/ピンに取り付けます。

モビリティーに制限のある方を車両に載せて移動させるための車両に設置されている安全拘束装置の配置

- 1) 拘束装置のラップベルトの端をシートの内側から外側へ引き出します（画像参照 67）。
- 2) 拘束装置のラップベルトの末端をそれぞれに対応する取り付け点/ピンにロックします（画像参照 68）。
- 3) ショルダーベルトをラップベルト上に用意されている取り付け点/ピンに固定します（図示なし）。
 - 拘束装置のラップベルトを引き入れ、締めます。
 - ベルトは両側でサイドパネルとシートクッションの間を通るようにしてください。



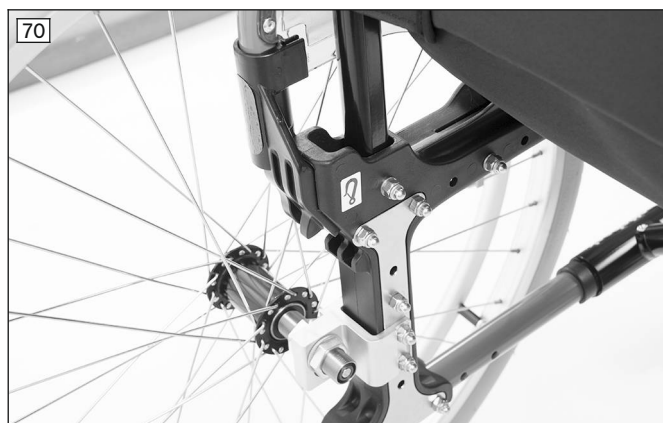
7.20.1.2.2 ベルトループの使用

モビリティーに制限のある方を車両で移動させる時の本製品の固定方法

モビリティーに制限のある方を車両で移動させる時に、この車椅子は、車両側に用意されている安全拘束装置に取り付けることができる4つのベルトループを使って固定します。

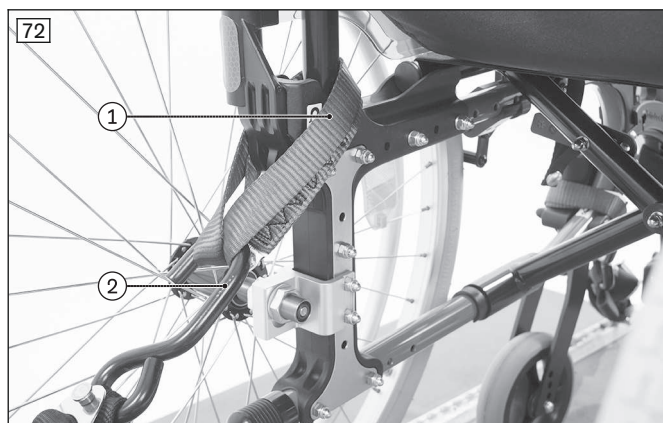
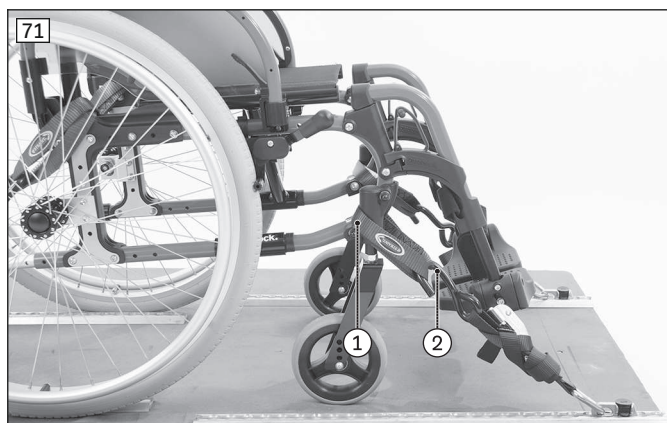
ベルトループの固定点はシール（写真参照）でマーキングされています。これらのシールはフレームパイプ上でベルトループを通す点を示しています：

- ・ 前方の固定点を示すシールは両側、キャスター取り付け具の上にあります： 画像参照 69。
- ・ 後方の固定点を示すシールはバックレストパイプの下端の後ろにある中央ユニットにあります： 画像参照 70。



ベルトループの取り付け

- 1) モビリティに制限のある方を移動する車両に本製品を設置します。詳細情報はパンフレット（注文番号 646D158）の第5章「モビリティに制限のある方を車両で移動」をご確認ください。
- 2) 前方固定点: マーキングのある位置でベルトループをその長さに応じて1回または2回巻いて、左右各フレームパイプに取り付けます(例: 画像参照 71、 1)。
- 3) 乗車中の車両に設けられている車椅子安全拘束ベルトのフックをベルトループにかけます(画像参照 71、 2)。
- 4) 後方固定点: マーキングのある点でベルトループをバックレストパイプ左右それぞれに取り付けます(例: 画像参照 72、 1)。
- 5) 乗車中の車両に設けられている車椅子安全拘束ベルトのフックをベルトループにかけます(画像参照 72、 2)。
- 6) 車両に設けられている安全拘束装置のベルトを前後でしっかりと締め上げます。
→ 付属ストラップが正しく配置されている製品(画像参照 73)。



モビリティに制限のある方を移動する車内での正しい安全輸送に関する情報

- ・ 「モビリティに制限のある方を移動する車内での正しい安全輸送に関する一般情報」の章も確認して下さい。

- ・ モビリティに制限のある方を車両に載せて移動させるには、車両に設置されている安全拘束装置を使用してください。車椅子に同乗者用の安全拘束装置を取り付けることは禁止されています。車両では3点拘束が義務付けられています：
 - － 安全拘束装置のラップベルトシステムは通常、ベルトリールまたはリトラクター（シートベルトの締め付け具）を使用して、両側後部を車両底部に取り付けられます。
 - － 安全拘束システムのショルダーベルトは通常車両の支柱に取り付けられており、有資格者がラップベルト上にあるそれに対応する取り付け点/ピンに取り付けます。

モビリティに制限のある方を車両に載せて移動させるための車両に設置されている安全拘束装置の配置

- 1) 推奨事項: サイドパネルを畳んでください。
- 2) 拘束装置のラップベルトの両端を外側からシートの内側へ引きます。
- 3) 上記の方法で、車両の底部に拘束ラップベルトの各端を取り付けます。
- 4) ショルダーベルトをユーザーの上および後ろに固定します。
- 5) サイドパネルを元の位置に戻します。
 - 拘束装置のラップベルトを引き入れ、締めます。
 - ベルトは両側でサイドパネルとシートクッションの間を通るようにしてください。

7.20.1.3 使用制限

△ 警告

特定の設定および/または取り付けられているオプションで製品を使用することによる事故や負傷の危険オプションが外れることにより事故時に重篤な負傷が発生するおそれがあります

- ▶ モビリティに制限のある方を移動させる車両内で本製品を座席と使用する前に、安全な移動のために取り外すべきオプションは必ず外してください。以下の表をご確認ください。
- ▶ モビリティに制限のある方を移動させる車両内では、取り外したパーツを安全に収納してください。
- ▶ 本製品のいくつかの設定は、モビリティに制限のある方を移動させる車両内で使用することができないためご注意ください。

Start M6 Junior

オプション ¹⁾	モビリティに制限のある方を移動させる車両内での使用不可	オプションを取り外すこと	オプションを製品に固定すること
拡張駆動	X		
バックレスト角度調整30°	X		
バックサポート、折り畳み式	X		
ホイールベース 長/受動	X		
組合わせ：	X		
・ シート後座高 < 380 mm および 22" 駆動輪	X		
・ シート後座高 < 410 mm および 24" 駆動輪	X		
医療用取り付けキット		X	
取り付け用キット付きヘッドサポート		X	
ヘッドサポート取り付け用キット、多軸		X	
スタビライザーバー		X	
輸送用車輪			X ²⁾
トレイ		X	
ラップベルト			X ³⁾

- 1) ここに挙げられているオプションは全ての製品に取り付けられているとは限りません。
- 2) 輸送用車輪はモビリティに制限のある方を移動する車両内で、駆動輪が取り付けられている状態の車椅子では取り外す必要はありません。
- 3) ラップベルトは移動中乗員をシートに安全に着席させる目的で使用することができます。これが使用されても、安全拘束装置は必ず使用してください。

7.20.2 Start M4 XXL

△ 警告

モビリティに制限のある方が移動する車両での不適切な使用
製品を座席として使用すると重傷のおそれがあります

- ▶ メーカーはモビリティに制限のある方が車で移動する際に本製品を座席として使用することを承認していません。
- ▶ モビリティに制限のある方を車両に載せて移動させる場合は、適切な安全拘束システムを備えた車両に用意されている座席のみを使用してください。
- ▶ 現時点での当社の取り組みに関する情報は、専門ディーラーまでお問い合わせください。

7.21 お手入れ方法

7.21.1 お手入れ方法

7.21.1.1 手作業でのお手入れ

- 1) パッドやカバーは、ぬるま湯および中性洗剤で洗濯してください。
- 2) シミ抜きは、スポンジまたは柔らかいブラシで行ってください。
- 3) パーツは清潔な水ですすいしてから乾燥させてください。

クリーニングに関する重要な情報

- ・ 強い洗剤、溶剤、または硬いブラシは使用しないでください。
- ・ プラスチック部品、フレーム部品、シャーシおよび車輪は、中性洗剤と湿らせた布で清掃します。清掃後はよく乾燥させてください。
- ・ シートクッションの清浄に関する情報は、製品上にあるお手入れ方法または納品されている取扱説明書を参照してください。

7.21.1.2 ベルト/ストラップのお手入れ

金属製バックルの付いたベルトシステムのお手入れ

備考

製品上にあるお手入れ方法および本製品に同梱されている該当する取扱説明書の指示に従って下さい。

- ・ 水が侵入すると腐食や誤動作発生の危険となるため、金属製バックル付きのストラップは洗濯機で洗わないでください。
- ・ また、ベルトストラップは洗剤（消毒剤を含む）の入った温かい水で軽くたたか、乾燥した清潔な吸収性のある布で丁寧に拭き取ってください。

プラスチック製バックルの付いたベルトシステムのお手入れ

- ・ バージョンによってはプラスチック製バックルの付いたベルト/ストラップを洗濯機で 40° C ~ 60° C の水温で洗うことができます。
- ・ 推奨：洗濯機の場合は、ランドリーバッグまたは洗濯ネット、および中性洗剤を使用してください。

備考

また、ベルトストラップは、洗剤（消毒剤を含む）の入った温かい水で軽くたたか、乾燥した清潔な吸収性のある布で丁寧に拭き取ることも可能です。

その他のお手入れ方法

- ・ ベルトは自然乾燥させます。取り付け前にベルトおよびパッドが完全に乾燥していることを確認してください。
- ・ ベルトを熱に直接あてて乾燥させないでください（直射日光、暖房、または放熱器など）。
- ・ ベルトにアイロンをかけたリ漂白剤を使用しないでください。

7.21.2 消毒

- 1) 消毒前にパッドとハンドルをしっかりと清掃してください。
- 2) 消毒液を浸した布で車椅子のすべてのパーツを拭いてください。

消毒に関する重要な注意事項

- ・ 本製品が複数のユーザーに使用される場合、消毒剤の使用が必要となります。
- ・ 無色の消毒液のみをご使用ください。製造元発行の取扱説明書をよくお読みください。

8 メンテナンスと修理

8.1 メンテナンス

- 必ずご使用になる前に、製品の機能を確認してください。
- 故障が見られる場合、本製品の使用を中止する必要があります。これには、製品の安定性や走行特性の変化、ユーザーの座位に問題が出てきた場合、シートの安定性に関わる問題が特に該当します。修理のため有資格者に速やかに連絡してください。
- これには緩み、摩耗、または破損が見られるパーツや、フレームの亀裂、フレームパーツに破損が見られる場合も該当します。
- メンテナンス作業のなかにはユーザー自らが自宅で行うことができるものもあります（「メンテナンスの頻度」および「メンテナンス作業」の章を参照）。
- 弊社では12ヵ月毎に有資格者が車椅子の定期メンテナンスを実施することも推奨しています。
- 本製品のメンテナンスを怠った場合、本製品ユーザーの負傷の原因となります。
- メンテナンスと修理は、義肢製作施設または製造元のみが実施することができます。こうすることで、修理の際にはOttobock社製のスペアパーツのみが使用されます。

8.1.1 メンテナンスの頻度

以下に記載のある機能は、指定されている頻度でユーザーまたは補助者が点検する必要があります：

点検事項	毎回の使用前	毎月	3ヵ月に1回
ホイールロックの機能テスト	X		
シートとバックレストカバーのたるみ		X	
キャスター軸首ベアリングの設定		X	
レッグサポートの安定性		X	
磨耗部品の目視点検(タイヤ、ベアリングなど)		X	
ベアリングの汚れ		X	
ハンドリムの損傷		X	
空気圧(タイヤ側面に記載されている情報を参照)		X	
折りたたみ機構の磨耗と破損		X	
駆動輪のスポーク張力の点検			X
全てのねじ接合の点検			X
本製品上の全てのラベル表示およびマーキングを読み取ることができるか確認		X	

8.1.2 メンテナンス作業

いつもスムーズな走行を確実にするため、技術的なスキルがある場合、ユーザーまたは補助者がメンテナンスを実施することが可能です：

- ボルトで留めた接続は、特に車椅子の使用を開始した直後や調整が行われた後に、しっかり固定されているか定期的にチェックしてください。ネジ接合がいつも緩んでしまう場合、専門販売店まで速やかにご連絡ください。
- 使用に伴い、汚れの粒子や髪の毛がキャスター軸やキャスターフォークのネジ軸にたまりやすくなります。これにより動きが鈍くなります。これらの軸から汚れや油分を定期的に取り除いてください。「動きが鈍い場合の措置」の章を参照してください。
- 駆動輪にはクイックリリースシステムが標準装備されています。このシステムを操作可能な状態に保つには、クイックリリース軸または軸受けのブッシングに汚れが付着しないよう注意してください。クイックリリース軸には定期的に樹脂を含まないオイル（マシン用オイル）を薄く塗布してください。
- 万一車椅子が濡れた場合、すぐに拭いて乾燥させてください。

8.2 修理

8.2.1 内部チューブ、リムテープ、タイヤの交換

▲ 注意

誤ったタイヤ交換

誤った取り付けによるユーザーの負傷、製品の破損

- ▶ 車椅子に乗った状態で車輪の交換をすることは禁止されています。
- ▶ 車輪を外す前に、本製品が倒れることがないように適切な措置を取ってください。
- ▶ タイヤは必ず一組で交換してください。左右のタイヤで摩耗レベルが異なると車椅子の方向安定性に影響を及ぼします。

備考

屋外を走行する場合、緊急時に備え修理キットとタイヤポンプ（空気圧タイヤを使用している場合）を常備してください。

適切なタイヤポンプは注文書にリストされており、製品と共に納品されています。その他にもタイヤの穴を埋め、硬化するタイヤ用フォームを使用することもできます（自転車店などで購入可能）。

タイヤのパンクの修理には特定のツールのみが必要となりますので、ご希望の場合ユーザー自らがタイヤを交換することもできます：

取り外しおよび取り付け準備

- 1) 適切な道具を使い、タイヤをリムから慎重に外します。
備考: 縁または内部チューブを破損しないよう注意してください。
- 2) バルブからバルブナットを外し、チューブを取外します。
- 3) リペアキットの取扱指示に従い、チューブを修理するか、新しいものに交換してください。
- 4) タイヤを取り付ける前に、異物がないかリムベッドおよびタイヤの内壁を点検してください。異物がパンクの原因であることがあります。
- 5) チューブ取り付けの前にリムバンドが正常な状態であることを確認します。リムバンドは、スポークの先端による破損からチューブを保護します。

**リムバンドの交換（必要な場合のみ）**

- 1) リムバンドの交換が必要な場合、バンドをリムから外します。
- 2) 新しいリムバンドをリムの内側に取り付け、その際バルブの開口部が正しい位置にくるよう注意してください。
- 3) リムバンドを所定の位置に接着します。すべてのスポーク先端がカバーされていることを確認してください。

チューブとタイヤの取り付け

- 1) バルブの後部からホイールリムの縁部にタイヤの片側を押し込みます。
- 2) 丸い形状になるまでチューブに少し空気を入れます。
- 3) チューブからバルブナットを外し、リムのバルブ開口部からバルブを押し込みます。
- 4) チューブをタイヤに挿入します。
- 5) バルブの反対側の位置からタイヤの反対側をリムに取り付けます。このプロセスでは、チューブがタイヤとリムの間に挟まれていないよう注意してください。



チューブに空気を入れる

- 1) バルブのエリアでチューブとタイヤが適切に配置されるように、バルブが垂直位置にあることを確認します。
- 2) バルブナットをしっかりと締めます。
- 3) タイヤを親指で押し下げることができる程度に内部チューブに空気を入れます。
備考: タイヤの両側の円周線がリムから等距離にある場合、タイヤは中央に配置されています。そうでない場合、空気を少し抜きタイヤを設置しなおしてください。
- 4) タイヤメーカーにより示された最大タイヤ圧までチューブに空気を入れます(タイヤの側壁に記載されている情報を参照ください)。
- 5) バルブにあるバルブキャップをしっかりと締めてください。

9 廃棄

9.1 廃棄に関する注意事項

廃棄の際は専門の業者に委託してください。
本製品の部品はすべて、各国の環境条例に従って廃棄してください。

10 法的事項について

法的要件についてはすべて、ご使用になる国の国内法に準拠し、それぞれに合わせて異なることもあります。

10.1 保証責任

オットーボック社は、本書に記載の指示ならびに使用方法に沿って製品をご使用いただいた場合に限り保証責任を負うものといたします。不適切な方法で製品を使用したり、認められていない改造や変更を行ったことに起因するなど、本書の指示に従わなかった場合の損傷については保証いたしかねます。

10.2 保証

保証条件に関する詳細は、本製品の担当有資格者(義肢装具製作施設)またはオットーボック社のアフターセールス・サービス(オットーボック・ジャパン)までご連絡ください(本書の巻末に表記の連絡先を参照ください)。

10.3 耐用年数

想定される耐用年数：4年

本製品の設計や製造、取扱説明書の指示内容は、想定される耐用年数に基づいています。これらには、メンテナンスの指示内容も含まれ、製品の効果と安全性を保証するものです。

11 テクニカル データ

備考

- ▶ テクニカルデータの大部分はmm単位です。特に指定のない場合、製品の設定は 0.5 cm または 1 cm 単位で行うものであり、mm単位では設定はできません。
- ▶ 実際調整を行った数値が指定されている数値と異なることがあります。認められている偏差は $\pm 10 \text{ mm}$ / $\pm 2^\circ$ です。

備考

- ▶ 以下に示されている測定値の中には、理論的に決定された数値も含まれています。
- ▶ 全ての調整を、全ての製品バージョンで実行できるとは限りません。また、フレームがコンパクトに設計されているため、調整の組み合わせには限界があります。
- ▶ 製造元は技術および偏差に関する変更を行う権利を有します。

概要

	開始
最大積載量 [kg]	M4 XXL: 160; M6 Junior: 90
モビリティに制限のある方が使用中に車で移動する際の最大積載量 [kg]	M6 Junior: 75
輸送重量 (座幅430 mm) [kg] ¹⁾	フレーム: 約9.5 ~ レグサポート: 約 1.4 24" 駆動輪 (一組): 約 3.5
全長 (レグサポートを含む) [mm]	下の表参照
全幅 [mm]	下の表参照
座幅 [mm] ²⁾	下の表参照
シート座高 [mm]	下の表参照
最大全長 [mm]	<1,200 (DIN EN 12183推奨に適合)
キャスターサイズ ["]	5から8
地面とのクリアランス [mm]	<30 (DIN EN 12183推奨に適合)
最小タイヤ圧 [bar] ³⁾	6
許容されているタイヤタイプ - 駆動輪	PUタイヤ、空気圧タイヤ
許容されているタイヤタイプ - キャスター	PUタイヤ、空気圧タイヤ、ソリッドラバー
ステアリング範囲、約 [mm] ^{2) 4)} (座幅 430 mm/奥行420 mmのモデル)	1,300
回転半径 [mm] ²⁾	<1,500 (DIN EN 12183推奨に適合)
許容されている傾斜角 [°]/[%] ⁵⁾⁶⁾⁷⁾	7/12.3

- 1) 選択されたオプションやモデルに応じて重量は異なります。
- 2) ISO 7176-5, 8.12準拠。
- 3) タイヤオプションにより異なるため、タイヤの側面にある印字を参照。
- 4) 180° の三点方向転換。
- 5) ホイールロックが有効な状態での駐車にも適用されます。
- 6) 全方向に適用 (上り、下り、横方向)。
- 7) ISO 7176-1準拠。

追加情報

開始	最小	最大
レグサポートを取り付けた場合の全長 [mm]	Start M4 XXL: 870 ¹⁾ Start M6 Junior: 800	Start M4 XXL: 1,090 Start M6 Junior: 1,065
全幅 (標準駆動輪を含む) [mm] ²⁾	Start M4 XXL: 645 Start M6 Junior: 495	Start M4 XXL: 795 Start M6 Junior: 620
全幅 (ドラムブレーキを搭載した駆動輪を含む) [mm] ²⁾	Start M4 XXL: 670 Start M6 Junior: 520	Start M4 XXL: 820 Start M6 Junior: 645
全長 (mm)全長 (mm)	Start M4 XXL: 840 ³⁾ Start M6 Junior: 840 ⁴⁾	Start M4 XXL: 1,045 Start M6 Junior: 1,040 ⁴⁾
全長 (折り畳んだ状態、レグサポートなし) [mm]	Start M4 XXL: 760 Start M6 Junior: 750	Start M4 XXL: 1,090 Start M6 Junior: 950
Width (folded) [mm]幅(折り畳んだ状態) [mm]	Start M4 XXL: 340 Start M6 Junior: 300	Start M4 XXL: --- Start M6 Junior: ---
高さ(折り畳んだ状態) [mm]	Start M4 XXL: 840 ³⁾ Start M6 Junior: 840	Start M4 XXL: 1,045 Start M6 Junior: ---
総重量 (ユーザーが乗車していない状態) [kg]	Start M4 XXL: 17.5 Start M6 Junior: 12	Start M4 XXL: 20 Start M6 Junior: 14.5

開始	最小	最大
取り外し可能な最も重いパーツの重量[kg]	---	1.8
シート傾斜 [°]	0	5
シート奥行有効値 [mm]	Start M4 XXL: 430 Start M6 Junior: 310	Start M4 XXL: 490 Start M6 Junior: 370
シート幅有効値 [mm]	Start M4 XXL: 430 Start M6 Junior: 280	Start M4 XXL: 580 Start M6 Junior: 380
シート前座高 [mm]	Start M4 XXL: 400 Start M6 Junior: 400	Start M4 XXL: 510 Start M6 Junior: 490
シート後座高 [mm]	Start M4 XXL: 380 Start M6 Junior: 370	Start M4 XXL: 500 Start M6 Junior: 490
バックレストの角度 [°]	0 (垂直)	Start M4 XXL: 3 ⁵⁾ Start M6 Junior: 30 ⁶⁾
バックレストの高さ [mm]	Start M4 XXL: 400 Start M6 Junior: 300	Start M4 XXL: 475 Start M6 Junior: 375
下肢長さ [mm]	Start M4 XXL: 270 Start M6 Junior: 160	Start M4 XXL: 470 Start M6 Junior: 450
レッグサポートと座面間の角度 ⁷⁾ [°]	70	80
フットプレートの座面に対する角度 [°]	完全調整可能	
アームサポートから座面までの距離 [mm]	Start M4 XXL: 200 Start M6 Junior: 200	Start M4 XXL: --- Start M6 Junior: 400
アームサポートの前位置 [mm]	Start M4 XXL: 220 ⁸⁾ Start M6 Junior: 175	Start M4 XXL: 310 Start M6 Junior: 270
ハンドリム直径 [mm]	470	540
Quickchange軸の水平位置 [mm]	Start M4 XXL: 30 Start M6 Junior: - 35 ⁹⁾	Start M4 XXL: 90 Start M6 Junior: 35 ⁹⁾
最低回転半径 [mm] ¹⁰⁾	Start M4 XXL: 790 ¹¹⁾ Start M6 Junior: 570	Start M4 XXL: 980 ¹²⁾ Start M6 Junior: ---

1) シート奥行とホイールベースが最小の場合。

2) ハンドリムの狭い取り付けの場合。

3) シート高とバックレスト高さが最小の場合。

4) 最小値は駆動輪サイズ22"、高さ調整ができないプッシュハンドルの場合、最大値は高さ調整可能プッシュハンドルの場合。

5) 標準バックレストパイプの場合。

6) バックレスト角度が 30° の場合。

7) 標準レッグサポートの場合、角度調整可能レッグサポートの場合は該当しません。

8) 長い前腕サポート場合 ≥ 160 mm。

9) 最小値 = 自動的ユーザーのための設定; 最大値 = 他動的ユーザーのための設定。

10) ISO 7176-5準拠。

11) シート奥行と座幅が最小の場合。

12) シート奥行と座幅が最大の場合。

環境条件

温度および相対湿度	
使用時の温度 [° C(° F)]	-10 ~ +40(14 ~ 104)
保管および輸送時の温度 [° C(° F)]	-10 ~ +40(14 ~ 104)
相対湿度 [%]	45 ~ 85

12 追加情報

12.1 電車で輸送させることができる車椅子の閾値

備考

- ▶ 本製品は、身体に不自由がある方の電車へのアクセスに関する最低技術要件 (EU指令 No.1300/2014) を完全にクリアしています。

機能	閾値 (EU指令 No. 1300/2014規定)
長さ [mm]	1200 (足のために+ 50 mm)
幅 [mm]	700 (移動中の手のために両側に+ 50 mm)
最小車輪 [°]	約 3 またはそれ以上 (規制では最小車輪は水平方向 75 mm 垂直方向 50 mm の隙間を乗り越えることができるものと規定されています)
高さ [mm]	最大 1,375 ; 身長 1.84 m の男性ユーザーを含む (95パーセントイル)
回転半径 [mm]	1500
体重制限 [kg]	200 (製品+ユーザー+荷物)
乗り越えることができる障害物の高さ最大値 [mm]	50
地面とのクリアランス [mm]	60 (上向き角度 10° では傾斜の終わりから前進する際、フットレスト下の地面へのクリアランスは最低でも 60mmが必要です)
車椅子が安定して留まることができる最大傾斜角 [°]	6 (全方向への動的安定性) 9 (全方向への静的安定性、ホイールロック時も)



A series of horizontal lines for writing, starting from the top of the page and extending to the bottom, just above the footer.



Lined writing area consisting of 25 horizontal lines spaced evenly down the page.



A series of horizontal lines spanning the width of the page, providing a template for writing. The lines are evenly spaced and extend from the left margin to the right margin.

Kundenservice/Customer Service

Europe

Otto Bock HealthCare Deutschland GmbH
Max-Näder-Str. 15 · 37115 Duderstadt · Germany
T +49 5527 848-3433 · F +49 5527 848-1460
healthcare@ottobock.de · www.ottobock.de

Otto Bock Healthcare Products GmbH
Brehmstraße 16 · 1110 Wien · Austria
F +43 1 5267985
service-admin.vienna@ottobock.com · www.ottobock.at

Otto Bock Adria d.o.o. Sarajevo
Ramiza Salčina 85
71000 Sarajevo · Bosnia-Herzegovina
T +387 33 255-405 · F +387 33 255-401
obadria@bih.net.ba · www.ottobockadria.com.ba

Otto Bock Bulgaria Ltd.
41 Tzar Boris III Blvd. · 1612 Sofia · Bulgaria
T +359 2 80 57 980 · F +359 2 80 57 982
info@ottobock.bg · www.ottobock.bg

Otto Bock Suisse AG
Luzerner Kantonsspital 10 · 6000 Luzern 16 · Suisse
T +41 41 455 61 71 · F +41 41 455 61 70
suisse@ottobock.com · www.ottobock.ch

Otto Bock ČR s.r.o.
Protetická 460 · 33008 Zruč-Senec · Czech Republic
T +420 377825044 · F +420 377825036
email@ottobock.cz · www.ottobock.cz

Otto Bock Iberica S.A.
C/Majada, 1 · 28760 Tres Cantos (Madrid) · Spain
T +34 91 8063000 · F +34 91 8060415
info@ottobock.es · www.ottobock.es

Otto Bock France SNC
4 rue de la Réunion · CS 90011
91978 Courtaboeuf Cedex · France
T +33 1 69188830 · F +33 1 69071802
information@ottobock.fr · www.ottobock.fr

Otto Bock Healthcare plc
32, Parsonage Road · Englefield Green
Egham, Surrey TW20 0LD · United Kingdom
T +44 1784 744900 · F +44 1784 744901
bockuk@ottobock.com · www.ottobock.co.uk

Otto Bock Hungária Kft.
Tatai út 74. · 1135 Budapest · Hungary
T +36 1 4511020 · F +36 1 4511021
info@ottobock.hu · www.ottobock.hu

Otto Bock Adria d.o.o.
Dr. Franje Tuđmana 14 · 10431 Sveta Nedelja · Croatia
T +385 1 3361 544 · F +385 1 3365 986
ottobockadria@ottobock.hr · www.ottobock.hr

Otto Bock Italia Srl Us
Via Filippo Turati 5/7 · 40054 Budrio (BO) · Italy
T +39 051 692-4711 · F +39 051 692-4720
info.italia@ottobock.com · www.ottobock.it

Otto Bock Benelux B.V.
Mandenmaker 14 · 5253 RC
Nieuwkuijk · The Netherlands
T +31 73 5186488 · F +31 73 5114960
info.benelux@ottobock.com · www.ottobock.nl

Industria Ortopédica Otto Bock Unip. Ltda.
Av. Miguel Bombarda, 21 - 2º Esq.
1050-161 Lisboa · Portugal
T +351 21 3535587 · F +351 21 3535590
ottobockportugal@mail.telepac.pt

Otto Bock Polska Sp. z o. o.
Ulica Koralowa 3 · 61-029 Poznań · Poland
T +48 61 6538250 · F +48 61 6538031
ottobock@ottobock.pl · www.ottobock.pl

Otto Bock Romania srl
Șos de Centura Chitila - Mogoșoaia Nr. 3
077405 Chitila, Jud. Ilfov · Romania
T +40 21 4363110 · F +40 21 4363023
info@ottobock.ro · www.ottobock.ro

OOO Otto Bock Service
p/o Pultikovo, Business Park „Greenwood”,
Building 7, 69 km MKAD
143441 Moscow Region/Krasnogorskiy Rayon
Russian Federation
T +7 495 564 8360 · F +7 495 564 8363
info@ottobock.ru · www.ottobock.ru

Otto Bock Scandinavia AB
Koppargatan 3 · Box 623 · 60114 Norrköping · Sweden
T +46 11 280600 · F +46 11 312005
info@ottobock.se · www.ottobock.se

Otto Bock Slovakia s.r.o.
Röntgenova 26 · 851 01 Bratislava 5 · Slovak Republic
T +421 2 32 78 20 70 · F +421 2 32 78 20 89
info@ottobock.sk · www.ottobock.sk

Otto Bock Sava d.o.o.
Industrijska bb · 34000 Kragujevac · Republika Srbija
T +381 34 351 671 · F +381 34 351 671
info@ottobock.rs · www.ottobock.rs

Otto Bock Ortopedi ve
Rehabilitasyon Tekniği Ltd. Şti.
Mecidiyeköy Mah. Lati Lokum Sok.
Meriç Sitesi B Blok No: 30/B
34387 Mecidiyeköy-Istanbul · Turkey
T +90 212 3565040 · F +90 212 3566688
info@ottobock.com.tr · www.ottobock.com.tr

Africa

Otto Bock Algérie E.U.R.L.
32, rue Ahcène Outaleb - Coopérative les Mimosas
Mackle-Ben Aknoun · Alger · DZ Algérie
T +213 21 913863 · F +213 21 913863
information@ottobock.fr · www.ottobock.fr

Otto Bock Egypt S.A.E.
28 Soliman Abaza St. Mohandessein · Giza · Egypt
T +20 2 37606818 · F +20 2 37605734
info@ottobock.com.eg · www.ottobock.com.eg

Otto Bock South Africa (Pty) Ltd
Building 3 Thornhill Office Park · 94 Bekker Road
Midrand · Johannesburg · South Africa
T +27 11 564 9360
info-southafrica@ottobock.co.za
www.ottobock.co.za

Americas

Otto Bock Argentina S.A.
Av. Belgrano 1477 · CP 1093
Ciudad Autónoma de Buenos Aires · Argentina
T +54 11 5032-8201 / 5032-8202
atencionclientes@ottobock.com.ar
www.ottobock.com.ar

Otto Bock do Brasil Tecnica Ortopédica Ltda.
Alameda Maria Tereza, 4036, Bairro Dois Córregos
CEP: 13.278-181, Valinhos-São Paulo · Brasil
T +55 19 3729 3500 · F +55 19 3269 6061
ottobock@ottobock.com.br · www.ottobock.com.br

Otto Bock HealthCare Canada
5470 Harvester Road
Burlington, Ontario, L7L 5N5, Canada
T +1 800 665 3327 · F +1 800 463 3659
CACustomerService@ottobock.com
www.ottobock.ca

Oficina Ottobock Habana
Calle 3ra entre 78 y 80.
Edificio Jerusalem · Oficina 112 · Calle 3ra.
Playa, La Habana. Cuba
T +53 720 430 69 · +53 720 430 81
hector.corcho@ottobock.com.br
www.ottobock.com.br

Otto Bock HealthCare Andina Ltda.
Calle 138 No 53-38 · Bogotá · Colombia
T +57 1 8619988 · F +57 1 8619977
info@ottobock.com.co · www.ottobock.com.co

Otto Bock de Mexico S.A. de C.V.
Prolongación Calle 18 No. 178-A
Col. San Pedro de los Pinos
C.P. 01180 México, D.F. · Mexico
T +52 55 5575 0290 · F +52 55 5575 0234
info@ottobock.com.mx · www.ottobock.com.mx

Otto Bock HealthCare LP
11501 Alterra Parkway Suite 600
Austin, TX 78758 · USA
T +1 800 328 4058 · F +1 800 962 2549
USCustomerService@ottobock.com
www.ottobockus.com

Asia/Pacific

Otto Bock Australia Pty. Ltd.
Suite 1.01, Century Corporate Centre
62 Norwest Boulevard
Baulkham Hills NSW 2153 · Australia
T +61 2 8818 2800 · F +61 2 8814 4500
healthcare@ottobock.com.au · www.ottobock.com.au

Beijing Otto Bock Orthopaedic Industries Co., Ltd.
B12E, Universal Business Park
10 Jiuxianqiao Road, Chao Yang District
Beijing, 100015, P.R. China
T +8610 8598 6880 · F +8610 8598 0040
news-service@ottobock.com.cn
www.ottobock.com.cn

Otto Bock Asia Pacific Ltd.
Unit 1004, 10/F, Greenfield Tower, Concordia Plaza
1 Science Museum Road, Tsim Sha Tsui
Kowloon, Hong Kong · China
T +852 2598 9772 · F +852 2598 7886
info@ottobock.com.hk · www.ottobock.com

Otto Bock HealthCare India Pvt. Ltd.
20th Floor, Express Towers
Nariman Point, Mumbai 400 021 · India
T +91 22 2274 5500 / 5501 / 5502
information@indiaottobock.com · www.ottobock.in

Otto Bock Japan K. K.
Yokogawa Building 8F, 4-4-44 Shibaura
Minato-ku, Tokyo, 108-0023 · Japan
T +81 3 3798-2111 · F +81 3 3798-2112
ottobock@ottobock.co.jp · www.ottobock.co.jp

Otto Bock Korea HealthCare Inc.
4F Agaworld Building · 1357-74, Seocho-dong
Seocho-ku, 137-070 Seoul · Korea
T +82 2 577-3831 · F +82 2 577-3828
info@ottobockkorea.com · www.ottobockkorea.com

Otto Bock South East Asia Co., Ltd.
1741 Phaholyothin Road
Kwaeng Chatuchark · Khet Chatuchark
Bangkok 10900 · Thailand
T +66 2 930 3030 · F +66 2 930 3311
obsea@ottobock.co.th · www.ottobock.co.th

Other countries

Ottobock SE & Co. KGaA
Max-Näder-Straße 15 · 37115 Duderstadt · Germany
T +49 5527 848-1590 · F +49 5527 848-1676
reha-export@ottobock.de · www.ottobock.com

Ihr Fachhändler | Your specialist dealer



Otto Bock Mobility Solutions GmbH
Lindenstraße 13 · 07426 Königsee/Germany
www.ottobock.com

